

《松江キャンパス》

平成26年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター松江キャンパス運営会議 名簿

(任期：平成 26.4.1～平成 27.3.31)

職 名	氏 名	備 考
教 授	小泉 凡	<ul style="list-style-type: none"> ・しまね地域共生センター長 ・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携推進委員会委員長
准教授	籠橋 有紀子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (COC 研究紀要)
准教授	福井 一尊	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (教育機関連携)
准教授	工藤 泰子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (公開講座連携・学生ボランティア推進)
管理課長	岩本 幸治	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局委員
嘱託員	藤原 香緒里	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局委員
ソーシャルラーニング・ コーディネーター	赤名 文	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局委員(学生ボランティア推進担当)
しまね地域 共生センター	片寄 成美	<ul style="list-style-type: none"> ・健康栄養学科専門コーディネーター
	山尾 淳子	<ul style="list-style-type: none"> ・保育学科専門コーディネーター
	小倉 佳代子	<ul style="list-style-type: none"> ・総合文化学科専門コーディネーター
	鳴尾 朋子	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局委員

平成26年度 松江キャンパスの地域連携活動概要

平成26年度の松江キャンパス地域連携推進センターでは、公開講座・教育機関連携・学生地域ボランティア活動の推進の3つを軸に活動した。正課授業・卒業プロジェクト・サークル活動を通して、あるいは学科、グループ・個人の単位でも活発な地域貢献活動が行われた。

また、平成25年度に文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の採択を受け、平成26年4月1日よりキャンパス・プラットフォーム「しまね地域共生センター」を2号館3階に設置し、地域連携活動の窓口の一本化をはかり、地域志向の研究と教育活動の推進につとめた。以下の目次に従って、松江キャンパスの地域貢献活動をまとめることにする。

- 1.地域連携推進委員会の活動
- 2.地域に関する教育・研究活動
- 3.公開講座・講演会等の開催
- 4.地域活性化支援
 - (1)企業・団体・NPO法人等との連携
 - (2)自治体等との連携
- 5.学生による地域貢献活動
- 6.教育機関等との連携－保・幼・小・中・高・大の教育連携
- 7.教育課程のための地域の施設・機関との連携
- 8.おはなしレストランライブラリーの地域連携活動

26年度の特筆すべき活動は、「しまね地域共生センター」を設置し活動を開始したことだ。5月14日にはオープニング記念講演会を開催。松江市出身の玄田有史氏(東京大学社会科学研究所教授)による記念講演「希望のしまね、しまねの希望」で、今後の活動の指針を確認することができた。6月28日には「ご縁の国しまね観光コンベンションin松江」をくにびきメッセ国際会議場で開催し、石森秀三氏(北海道開拓記念館館長)の基調講演やパネルディスカッションを通して、島根の豊かな地域資源を存分に活かした観光のあり方を考えた。平成27年2月12日には、従来の松江市に加え、その他の自治体・団体を含めたCOC教育連携協議会を実施、また、3月6日にはCOC研究連携協議会を開催し、しまね地域共育・共創研究助成金の採択者による地域志向研究の発表を行った。さらに研究成果の一部は『しまね地域共生センター紀要』0号、1号により公表した。

地域志向の研究や授業の進展に伴い、地域で学ぶ姿勢が学科を超えて浸透しつつある。25年度に開始したキラキラドリーム・プロジェクトでは、26年度は学生による地域企業への積極的な働きかけにより、産学連携商品や旅行会社と連携した着地型観光プランも実現をみた。恒例の公開講座「椿の道アカデミー」は、14講座(25年度は12講座)となり、延べ参加者数も25年度より約300名増加した。会員制度を導入当初減少した参加者数も徐々に回復しつつあり、喜ばしい兆しである。

今後も、「地域をキャンパスに」「キャンパスを地域に」の精神を念頭に置き、地域のニーズにこたえる地域貢献活動を継続していきたい。

しまね地域共生センター センター長 小泉 凡

1. 地域連携推進委員会の活動

松江キャンパスにおいては、地域連携推進委員会の活動内容を「公開講座および学生ボランティア活動の推進」「教育機関・その他高大連携および地域志向教育の推進」「地域志向研究の推進」の3部門に分け、それぞれ委員により窓口を分担した。

- ・委員長(地域連携推進センター副センター長) 小泉 凡(総合文化学科教授)
- ・公開講座・学生ボランティアの推進 工藤泰子(総合文化学科准教授)
- ・幼稚園のぎ・乃木小学校・湖南中学校・松江商業高等学校との三者連携を含む教育機関とその他高大連携および地域志向教育推進
福井一尊(保育学科准教授)
- ・『しまね地域共生センター紀要』発行を含む地域志向研究の推進
籠橋有紀子(健康栄養学科准教授)

2. 地域に関する教育・研究活動

【地域志向科目の位置づけ】

平成26年度授業計画書には以下の授業を「『地(知)の拠点整備事業』における地域に関する学修を行う授業科目一覧」と位置付け授業計画書に掲載し、地域志向教育の推進をはかった。

平成26年度「地(知)の拠点整備事業」における地域に関する学修を行う授業科目一覧 健康栄養学科

分野区分		科目名
専門科目	専門基礎	栄養士スキルⅠ
		栄養士スキルⅡ
	食品と衛生	食品機能論
	地域と食生活	地域の特性と食材利用
	卒業研究	卒業研究

保育学科

分野区分		科目名
専門科目	福祉	地域福祉論
		社会的養護

総合文化学科

分野区分		科目名
共通専門科目	世界を知る	アジア文化交流
	山陰を知る	小泉八雲入門
		へるん探求
		へるん作品鑑賞
		島根の祭りと芸能
		山陰の民話とわらべ歌
		出雲古代史

文化資源学系	地域を「知る」「考える」	地域文化研究
		地域探検学
	地域を「歩く」「書く」	しまねツーリズム論
		住生活学
英語文化系	英語とコミュニケーション	文化とガイド
	英語コミュニケーションの実践	観光フィールド・トリップ
日本語文化系	日本のことばと文学	日本古典文学入門
		日本古典文学を歩く
	日本の文化と歴史	松江の文化と歴史
		しまね歴史探訪

【履修証明プログラム開発】

拠点となるキャンパス・プラットフォーム「しまね地域共生センター」を開設した。

研究に関しては「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を目指すことを掲げた大学憲章に合わせ、「健康・保育・文化・観光」の専門分野を活かした共同研究の推進、さらにその成果を活かした履修証明プログラムの開発に着手した。

- ・関係各機関への連携協力依頼
- ・e-ラーニングの素材となる動画の撮影

【しまね地域共育・共創研究助成金】

平成26年度には松江キャンパスから地域活動経費に5件、しまね地域共創基盤研究費に6件の応募があり、11件すべてが採択された。(53頁～63頁、77頁～87頁参照)

この助成金で行う研究については成果報告を3月の「研究連携協議会」で発表した。

【しまね地域共生センターオープニングセレモニー】

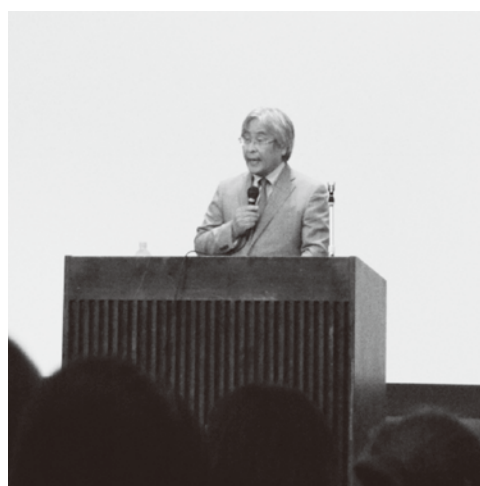


5月14日(水)に、本学大講義室でオープニング・セレモニーを開催した。内容はしまね地域共生センター概要説明・記念講演・鼎談・センター見学会の4部構成。記念講演講師は「希望学」という新たな分野を切り拓いた、松江市出身で東京大学社会科学研究所教授の玄田有史氏で、「希望のしまね、しまねの希望」と題して講演いただいた。他キャンパスにも講義中継

システムで配信され、参加者約320名は「挫折や試練といった困難を希望につなげていくヒント」を示唆された。「希望活動人口」「希望トリトリプロジェクト」など興味深いキーワードも参加者を魅了し、今後の活動の指針を確認することができた。講演に引き続き、玄田有史氏・本田雄一学長・小泉凡センター長の3名による鼎談も行われた。

【ご縁の国しまね 観光コンベンションin松江】

6月に総合文化学科教員を中心にして「島根の宝-資源-を世界に発信！」をテーマに観光による地域の魅力発信を目的として開催した。北海道開拓記念館館長の石森秀三氏による基調講演とパネルディスカッションで構成された1部と、2部では有福神楽保持者会による石見神楽公演が実施された。県外からの参加者もあり、参加者数は200名となった。



▲基調講演 石森秀三氏



▲石見神楽の公演

【『しまね地域共生センター紀要』vol.1の発刊】

平成25年度の研究連携協議会での発表を掲載した創刊0号に続いて、今年度は、本学教員11名の研究の成果報告を1号にまとめた。地域一般の方も手に取りやすいデザインと構成を目的としつつも、既出のものに遜色ない「紀要」が完成した。

【『地域研究と教育』vol.3の作成】

平成26年度に行った事業である「ご縁の国しまね 観光コンベンションin松江」の開催報告を

はじめ、地域と共同した研究や地域とつながる授業の近年の取り組みを紹介している。写真を多く掲載し、目でも楽しみ、広報にも向いた冊子が完成した。



▲しまね地域共生センター紀要vol.1



▲地域研究と教育vol.3

【研究連携協議会】

平成27年3月にしまね地域共育・共創研究助成金採択研究の成果を報告し、「共育・共創」について57名の出席者が耳を傾けた。

学外の2名のコメンテーターからは、全ての研究報告についての貴重な意見と感想をコメントいただいた。

報告は以下のとおりである。

<研究報告>

- ・西条ガキ熟柿ピューレの省力化生産技術の開発／赤浦和之教授
- ・国体候補高校生に対する食事調査・栄養診断・栄養指導事業／酒元誠治教授
- ・しまね和牛肉の食肉加工方法の検討について～加工材料の検討～／籠橋有紀子准教授
- ・「出雲国風土記」の英訳研究／松浦雄二教授
- ・大学付属の児童図書専門図書館の調査～おはなしレストランライブラリーの有効活用に向けて～／マユアキ教授(研究代表者:岩田英作教授)
- ・学生の視点を活かした観光振興の可能性を探る～雲南市吉田町を事例に～／工藤泰子准教授

<ポスター紹介>

- ・島根県産つや姫の生産・販売拡大に向けた取り組み／名和田清子教授
- ・有機農業推進のための技術開発プロジェクト・将来のしまね農業を支える商品づくりプロジェクト／名和田清子教授
- ・島根の伝統工芸の体験と英語による情報発信／ラング クリス講師

<「さんいんびより」発刊の紹介>

- ・山陰の特徴景色を題材とした写真作品による地域文化資源意識の定着に向けて～島根県・鳥取県全38市町村の今日的姿を絵画的に撮影した作品集の印刷・製本および啓発活動から～／福井一尊准教授

<コメンテーターからのコメント>

- ・島根県立農林大学校 校長 吉田政昭 氏
- ・松江市観光協会 観光文化プロデューサー 高橋一清 氏

3. 公開講座等の開催

【平成26年度公開講座の概要】

生涯教育、地域教育の拠点として、松江キャンパスの魅力づくりを図るため導入した「椿の道アカデミー」会員制度は、平成26年度で4年目となった。

「椿の道アカデミー」における各講座は、それぞれの趣旨や内容により、通常複数回の講義や実習等を提供し、受講者数も独自に定めている。平成26年度は、合計14講座90回を開講し、申込者数は362名、会員登録者数は339名であった（「平成26年度公開講座会員登録者数」参照）。申込者の約94%が会員登録をした結果となった。なお、「山陰民俗学会連携講座：民俗の行方～山陰のフィールドから考える～Part2」、「民族音楽の楽しみ：ガムラン教室」、「椿の道読書会」そして「健康栄養講座：高齢者の食と健康」が、「まつえ市民大学」連携講座の一部であることから、この市民大学関連の受講生も上記中の該当講座を受講している。

平成25年度は、公開講座の参加者数が延べ1,968名であったが、平成26年度は2,270名と増加した。会員制度を導入した平成23年度には減少した参加者数も、徐々に回復してきている。平成26年度公開講座の開催状況については、一覧表を208頁に掲載している。

平成26年度 公開講座会員登録者数（H27,3月末）

講座名	定員	申込	登録	登録率
1. 総合文化講座	100	113	110	97%
2. 源氏物語を読む	100	100	100	100%

3. 風土記の語る神話	100	129	129	100%
4. 椿の道読書会	15	19	16	84%
5. 子どもがいる家庭のための英語教育実践講座	10	29	21	72%
6. 英語絵本の音読を楽しもう	10	14	14	100%
7. ～続～子育て・孫育て世代のための子ども理解講座	15	20	19	95%
8. 健康栄養講座:高齢者の食と健康	20	30	28	93%
9. 栄養士のためのステップアップ講座	40	26	25	96%
10. 山陰民俗学会連携講座	100	28	29	104%
11. 民族音楽の楽しみ	25	18	16	89%
12. 子どもの困った行動に対処する養護・保育のスキルアップ講座	20	8	8	100%
13. 案外知っているようで知らない「人」の話	20	55	35	64%
14. 文化資源探求講座:①松江ゴーストツアー	25	26	23	88%
14. 文化資源探求講座:②出雲の弥生遺跡を歩く	50	73	68	93%
合計	650	688	641	93%
申込者実数	*	362	339	94%

【現任者向けの養護・保育のスキルアップ講座】

子どもの困った行動に対処する養護・保育のスキルアップ講座:コモンセンス・ペアレンティング



▲子どもの困った行動に対処する養護・保育のスキルアップ講座の様子

学童保育、幼児教育、相談援助などを行っている専門職の方々に加えて、子育て真っ最中のお母さんも交えながら、アメリカ生まれの子育て支援プログラム(コモンセンス・ペアレンティング)を学んだ。参加者は学びの内容をロールプレイで練習するとともに、職場や家庭で宿題として実践した。このような具体的、実践的な学習方法を採用していることがCSPの特徴と言える。ロールプレイを行い、宿題を報告しあうことで、参加者同士の心の距離

も縮まり、楽しく学ぶことが可能となる。講座の参加者は8名と少数であったものの、和気あいあいとした雰囲気の中で全8回を終えることができた。

【栄養士のためのステップアップ講座】

管理栄養士国家試験の合格を目指す栄養士の卒後教育として、島根県内の栄養士を対象として開催した。ここ五年間の延べ参加者は100名を超えた。本学HPの在学生・卒業生総合

支援web『Camellia(カメリア)』に質問掲示板を立ち上げ、日程が合わない、遠方で来られないという方でも、随時質問ができるよう対応した。合格後も情報提供を希望する人が多く、卒業後や国家試験合格後も繋がりを絶やすことなく、地域に貢献できる講座を目指している。

【民族音楽の楽しみ:ガムラン教室】

17年目を迎える「民族音楽の楽しみ」は、10年目頃から「ガムラン(インドネシアの青銅製の打楽器オーケストラ)」に特化して開講している。民族音楽の鑑賞だけでなく、松江市八雲町の古民家「秋奥ガムラン音楽堂」を会場に、皆で楽器を演奏して曲を仕上げていくという初心者向けの体験型の講座を行った。講師は元本学教授で、全12回開催した。ガムランは、舞踊劇やワヤン(影絵芝居)にも使われており、講座ではガムラン演奏だけでなくワヤンにも挑戦した。来年度からは初心者講座と中・上級者講座の2講座を開設し、グローバルであると同時に、地域に根ざしたローカルな活動をめざす。

【文化資源探求講座】

学外に出て、山陰の文化資源を五感で観察、探求しようという趣旨の講座で、参加者のご要望にこたえて平成26年度は、2講座を開講した。

①松江ゴーストツアー:8月8日(金)16:00-21:20
小泉八雲が採集、再話した怪談の語りを堪能する夜の文化探訪バスツアーで、NPO法人松江ツーリズム研究会と連携して平成26年度に初めて開講した。小泉凡教授の講演と松江の郷土料理もあわせて楽しんだ。参加者数は18名。



▲西谷墳墓群(出雲市)

②出雲の弥生遺跡を歩く:11月3日(日)に実施。NPO法人出雲学研究所会員で元山陰中央新報社論説委員の岡部康幸氏と小泉凡教授が講師として同行した。山陰を代表する四隅突出型墳墓の西谷墳墓群、出雲弥生の森博物館、荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡など出雲の弥生時代の遺跡群を中心にバスツアーを行った。参加者数は39名。

【客員教授による講演会の公開】

平成26年度は各学科で客員教授による講演会を実施し、椿の道アカデミー会員や一般に公開した。各学科の客員教授講演会の概要は以下のとおりである。

①健康栄養学科

日時:平成26年11月9日(日)

講師:京都府立大学大学院教授 木戸康博氏

テーマ:「栄養士・管理栄養士のこれまでとこれから」



▲客員教授講演会 木戸康博氏

参加者：学生83名、教職員12名、学外専門職
50名 合計145名

②保育学科

日時：平成26年11月29日(土)

講師：山梨大学大学院教育研究科教授
中村和彦氏

テーマ：「今、子どもたちに何が必要か-幼児
期運動指針の意図すること-」

参加者：学生、教員、学外専門職、行政関係者
合計180名



▲客員教授講演会 中村和彦氏

③総合文化学科

日時：平成26年11月19日(水)

講師：東京大学大学院人文社会系研究科(文
化資源学)教授 木下直之氏

テーマ：「『裏返る町』-ショッピングモールから
考えるこれからの風景-」

参加者：学生155名、教職員22名、地域の方々
5名 合計182名



▲客員教授講演会 木下直之氏

4. 地域活性化支援

(1) 企業・団体・NPO法人等との連携

松江キャンパスにおいては、平成26年度もNPO法人等、学外団体との協力を継続的に推進した。今年度は、健康栄養学科による食育推進での連携活動、島根県特産品の振興を図る取組み、総合文化学科の「おはなしゼミ」による県内各地での読み聞かせ活動等、多彩な連携事業を実施した。

平成26年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体との協力事業

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
しまね地域共育・共創研究助成金	健康栄養学科 教授 赤浦和之	西条ガキ熟柿ピューレの省力化生産技術の開発	平成26年度		健康栄養学科教員と企業との共同事業 健康栄養学科学生2名参加
島根県立大学北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)	健康栄養学科 教授 赤浦和之	西条ガキ冷凍熟柿および冷凍ドライ熟柿生産技術の開発	平成26年度		健康栄養学科教員と企業との共同研究 健康栄養学科学生2名参加
島根県立大学北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	しまね和牛を利用した高齢者向けの食肉開発 ～理化学分析による検討～	平成26年 4月～平成 27年3月		健康栄養学科2年生1名参加島根県畜産技術センターとの共同研究
島根県畜産技術センター 受託研究	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産に係る牛肉品質の評価	平成26年 7月～平成 27年3月		健康栄養学科2年生1名参加島根県畜産技術センターとの受託研究
しまね地域共育・共創研究助成金	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	しまね和牛肉の食肉加工方法の検討について ～加工材料の検討～	平成26年 4月～平成 27年3月		健康栄養学科2年生1名参加加工生産者との連携による
産学官連携による「しまね三昧リエット(仮称)」の考案・試作	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	「しまね三昧リエット(仮称)」の考案・試作	平成26年 5月～平成 27年3月		健康栄養学科2年生3名参加

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
産学官連携企画 「しまね三昧リエット(仮称)」の考案・試作の販売に向けた試食会実施(島根県、島根県畜産技術センター、JAしまね雲南地区本部、いずも八山椒との連携企画)	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子 事務局 管理課 長 岩本幸治 教務学生課主任 主事 雪吹重之	「しまね三昧リエット(仮称)」の考案・試作の販売に向けた試食会実施	平成27年 3月24日		健康栄養学科2年生3名参加 島根県、島根県畜産技術センター、JAしまね雲南地区本部、いずも八山椒との連携による
島根の「つや姫」マイスター第4回集合研修	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	おいしさの見える化 情報提供(研究発表)	平成26年 12月5日		しまね地域共生センター コーディネーター1名参加
島根米食味向上の取り組み(全国農業協同組合連合会)	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	島根米食味向上の取り組みへの技術協力	平成26年 12月2日		全国農業協同組合連合会からの依頼
松江東高校男子バスケットボール部および松江商業高校女子バスケットボール部	健康栄養学科 教授 酒元誠治 准教授 籠橋有紀子 助教 水珠子	バスケットボール部員の食事調査と身体計測を組み合わせた、競技力向上への取り組み	平成27年 1月～3月		健康栄養学科卒論生6名参加
しまね地域共育・共創研究助成金	健康栄養学科 教員	島根県産「つや姫」の生産・販売拡大に向けた取り組み	平成26年度		健康栄養学科教員と島根県・島根県農業技術センターとの共同研究 健康栄養学科学生が参加
平成26年度牛乳・乳製品利用料理コンクール島根県大会	健康栄養学科 教授 名和田清子	開催支援	平成26年 10月5日		健康栄養学科学生5名ボランティア
しまね地域共育・共創研究助成金	健康栄養学科 教授 名和田清子 しまね地域共生センター 健康栄養学科コーディネータ 片寄 成美	有機農業推進のための技術開発プロジェクト 将来の島根農業を支える商品づくりプロジェクト	平成26年度		島根県農業技術センターとの共同研究 健康栄養学科学生が参加
平成26年度「わが家の一流シェフin島根」料理コンクール	健康栄養学科 教授 名和田清子 しまね地域共生センター 健康栄養学科コーディネータ 片寄 成美	開催支援	平成26年 11月30日		健康栄養学科学生12名ボランティア

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
炎症性腸疾患患者会 陽だまりの会	健康栄養学科 教授 名和田清子	研修会の開催支援及 び講師	平成26年 10月4日	13名	健康栄養学 科学生2名 ボランティア
炎症性腸疾患患者会 はなみずきの会(浜田 保健所)	健康栄養学科 教授 名和田清子	研修会の開催支援及 び講師	平成26年 12月7日	10名	
炎症性腸疾患患者会 県央保健所	健康栄養学科 教授 名和田清子	研修会の開催支援及 び講師	平成26年 9月28日	9名	
炎症性腸疾患患者会 倶楽部UCD(出雲保健 所)	健康栄養学科 教授 名和田清子	研修会の開催支援及 び講師	平成26年 7月27日	24名	健康栄養学 科学生1名 ボランティア
第41回小児糖尿病大 山サマーキャンプ	健康栄養学科 教授 名和田清子	第41回小児糖尿病大 山サマーキャンプの開 催支援	平成26年 8月3日～ 8月10日		健康栄養学 科学生2名 ボランティア
岡山県立美術館	保育学科 准教授 福井一 尊	本学協賛事業として 「目の目、手の目、心の 目」展に出品及び関連 行事を実施した。	平成26年3 月14日から 平成27年4 月19日	一般 公開	
NPO法人松江ツーリ ズム研究会	総合文化学科 教授 小泉 凡	同NPO法人が管理・ 運営する小泉八雲記 念館の顧問として、企 画展「ヘルンと家族」 の展示・キャプション 作成の監修を行う。ま た、ミステリーツアー (年2回)、平成27年度 から開始の着地型観 光プラン「八雲の KWAIDAN散歩」の ガイド研修講師(3回) をつとめる。	平成26年4 月～平成27 年3月	ミステ リーツ アー参 加者 約80名	
焼津市教育委員会	総合文化学科 教授 小泉 凡	焼津小泉八雲記念館 の名誉館長として、焼 津ゴーストツアー(8月 2日)、講演会「怪談四 代記―八雲のいたず ら」(8月3日)、文芸作 品コンクールへのメッ ッセージ執筆、27年度 企画への助言等を行う。	平成26年4 月～平成27 年3月	参加者: 講演会 40名・ ゴース トツ アー 23名	
「子ども塾―スーパ ーヘルンさん講座―」 (松江市観光振興部観 光文化課主管・子ども 塾実行委員会主催)	総合文化学科 教授 小泉 凡	子どもの五感力を育 む教育実践第11回「子 ども塾」を実施・運営 し、塾長をつとめる。 テーマは子ども耳袋in 松江。島根大学附属 小学校の教員、作家 の木原浩勝氏らと連 携して実施。	平成26年4 月～平成27 年3月 7月25日、7 月28日、7月 31日	参加者 10名	

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
小泉八雲110年祭まつえ実行委員会(松江市観光振興部観光文化課主管)	総合文化学科 教授 小泉 凡	同事業の実行委員長として朗読座「日本の面影」公演(6月27日・28日)、小泉八雲朗読ライブ(9月14日)などの企画・運営に携わる。	平成26年4月～平成27年3月		
アイリッシュ・フェスティバル in 松江 2015 (松江市観光振興部国際観光課主管、アイリッシュ・フェスティバル実行委員会主催)	総合文化学科 教授 小泉 凡 准教授 工藤 泰子	3月8日開催の同事業の実行委員長・委員として企画・運営にあたる。	平成26年10月～平成27年3月	パレード参加 300名	総合文化学科学生10名参加
Cafe×Bar灯 Cafe×Bar灯 実行委員会	総合文化学科 講師 山村桃子	カラコロ工房での日本舞踊	平成26年6月7日		日本舞踊サークル部員5名参加
松江水燈路 松江市観光振興公社	総合文化学科 講師 山村桃子	堀川遊覧野点船におけるお茶席	平成26年10月18日、19日		茶道部員10名参加
松江水燈路 松江市観光振興公社	総合文化学科 講師 山村桃子	松江歴史館での日本舞踊	平成26年10月18日、19日		日本舞踊サークル部員5名参加
おとめ在月 山陰中央新報社	総合文化学科 講師 山村桃子	おとめ茶会におけるお茶席	平成26年11月8日、9日		茶道部員10名参加
とんど祭 国尾自治会(浜乃木七丁目)	総合文化学科 講師 山村桃子	運営補助ボランティア	平成27年1月11日		ボランティアサークルvolcano部員7名参加
松江神在月だんだんウォーク 株式会社メディアスコープ	総合文化学科 教授 岩田英作 講師 山村桃子	運営スタッフボランティア	平成26年11月8日、9日		総合文化学科1,2年生33名、健康栄養学科1年生6名、計39名参加
NPOプレーパークてんとう虫主催出前シェフ	総合文化学科 教授 岩田英作	出雲市斐川町の古民家「てんとう虫の家」で、一般の親子づれを対象に、読み聞かせの実践を行った。	平成26年5月24日	10名	総合文化学科2年生4名
出雲郷公民館出前シェフ	総合文化学科 教授 岩田英作	出雲郷地区の子供たちを対象に読み聞かせを行った。	平成26年7月26日	50名	総合文化学科2年生2名
古志原公民館出前シェフ	総合文化学科 教授 岩田英作	古志原地区の子供たちを対象に読み聞かせを行った。	平成26年9月6日	50名	総合文化学科2年生4名
松江スティックビルおもちゃのひろば出前シェフ	総合文化学科 教授 岩田英作	松江地区の子供たちを対象に読み聞かせを行った。	平成26年9月8日	10名	総合文化学科2年生3名

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
大田市立温泉津図書館出前シェフ	総合文化学科 教授 岩田英作	温泉津の子供たちを対象に読み聞かせを行った。	平成26年 9月20日	5名	総合文化学科2年生2名
鳶巣コミュニティセンター出前シェフ	総合文化学科 教授 岩田英作	鳶巣幼稚園の園児を対象に読み聞かせを行った。	平成26年 10月25日	30名	総合文化学科2年生2名
大田市立仁摩図書館出前シェフ	総合文化学科 教授 岩田英作	仁摩の子供たちを対象に読み聞かせを行った。	平成26年 11月1日	30名	総合文化学科2年生3名
仁多カルチャープラザ出前シェフ	総合文化学科 教授 岩田英作	仁多の子供たちを対象に読み聞かせを行った。	平成26年 12月6日	10名	総合文化学科2年生3名

【健康栄養学科の地域活性化支援】

健康栄養学科においては、青年期への食育推進活動として、島根県主催平成26年度「わが家の一流シェフin島根」料理コンクールの開催協力や食育ホームページの開設を行った。また、乃木小学校の5年生を対象として「からだのリズムと朝ごはん」について食育を行った。

さらに、平成26年度牛乳コンクール(島根県牛乳普及協会)(10月5日、於 島根県立大学短期大学部松江キャンパス)では、学生5名がボランティアを務めた。

島根県産品の振興を図る取り組みとしては、西条柿熟柿ピューレを利用した食品開発、西条柿冷凍熟柿および冷凍ドライ熟柿の開発および西条ガキ熟柿ピューレの省力化生産技術の開発、しまね和牛のおいしさの科学分析、およびその成果を活かした食品加工への提案、出西生姜や米味噌とのコラボレーションによる食品開発等を行った。また、島根県産米「つや姫」の分析、有機農業産物、オリジナル品種(品目)の食味に関する分析を行った。



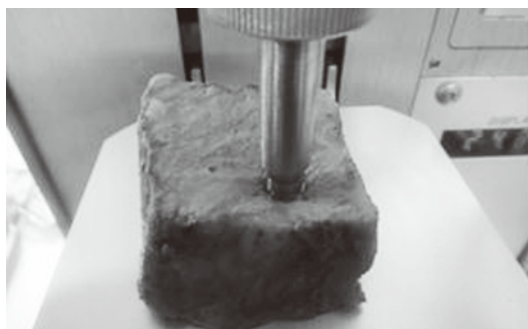
▲熟柿ピューレを用いた「酢(し)まね柿サイダー」と柿果汁入り飲料「酢まね柿っこ」

西条柿熟柿ピューレを利用した食品開発では、松江市東出雲町の柿農家と健康栄養学科教員(赤浦和之教授)および学生3名が協力し、松江市商工企画課の支援も受けて熟柿ピューレを用いたドレッシングおよび秋鹿ごぼうと熟柿ピューレ入りキーマカレーの商品化に取り組んだ。これらのうちキーマカレーの商品化は見通しがつき、平成26年1月22日にレトルトカレーとしての試食会が開催された。次年度ではあるが新商品発売が予定されている。

また、島根県立大学北東アジア地域学術交流研究助成金を受け、東出雲町の柿農家と健康栄養学科教員(赤浦和之教授)が共同開発した西条ガキ冷凍熟柿の発表会が、平成26年6月24日松江市庁舎で行われた。さらに、学生2名と冷凍ドライ熟柿の開発も行い、得られた成果の一部を卒業研究発表会において発表した。しまね地域共育・共創研究助成金を受けた事業では、学生2名が協力して西条ガキ熟柿ピューレの省力化生産技術の開発を行い、その成果は生産現場で省力化技術として実用化されている。次年度も引き続き、地域の活性化の観点から、西条柿では、西条ガキ熟柿の生産技術の開発と熟柿ピューレを用いた加工食品の開発を行う。

「しまね和牛肉」の食味研究では、新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産に係る牛肉品質の評価について、健康栄養学科教員(籠橋有紀子准教授)および学生1名が島根県畜産技術センターとの受託研究において協力し、官能試験および理化学分析を用いて「しまね和牛肉」の食味を科学的に評価し、データの提供を行った。また、島根県立大学北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)において、出西生姜の機能性を生かした食肉の加工方法に関する技術提案に健康栄養学科教員(籠橋有紀子准教授)および学生1名が参加した。また、しまね地域共育・共創研究助成金事業において、しまね和牛肉の食肉加工方法および加工材料の検討を出西生姜の機能性を生かした食肉の加工方法に関する技術提案に健康栄養学科教員(籠橋有紀子准教授)および学生3名が行った。松江市西長江エコ米グループおよび島根大学生物資源科学部と健康栄養学科教員(籠橋有紀子准教授)および学生1名との連携により、有機農産物の中でも今年度より有機米に着目し、食味について官能評価、理化学分析を行い、試食販売等にその成果を活用した。

また、しまね和牛肉、出西生姜、有機米について行った卒業研究の成果を活かし、健康栄養学科教員(籠橋有紀子准教授)および学生3名は、「しまね三昧リエット(仮称)」の考案・試作を行い、島根県、島根県畜産技術センター、JAしまね雲南地区本部、いずも八山椒との連携により、平成27年3月24日に「産学官連携企画「しまね三昧リエット(仮称)」の販売に向けた試食会」を開催した。試食会では、「しまね三昧リエット(仮称)」の紹介と研究内容発表、リエットを活用したメニューの試食を行った。次年度以降も引き続き、「しまね和牛肉生産技術の開発および品質評価手法の検討」を目的として、「しまね和牛肉」の食味について理化学分析および官能評価等の手法を用い、基礎データの集積・提供および加工に関する技術協力を行う。また、研究成果を活用方法の提案および加工食品の開発を行う。



▲「しまね和牛肉」の理化学分析(左)および官能試験(右)の様子



▲「産学官連携企画「しまね三昧リエット(仮称)」の販売に向けた試食会」の様子

島根県産米「つや姫」の科学分析では、温暖化により品質の低下している平坦地域の「コシヒカリ」に替わる米として、「つや姫」の普及拡大を目的に、島根県、島根県農業技術センターと共同で官能試験、理化学分析(電子顕微鏡で炊飯米断面の構造を観察、テンシプレッサーで炊飯米物性(粘りと硬さ)を機械的に測定)を行った。有機農産物の分析では、有機栽培のトマトとオリジナル品種のメロンの官能評価を行った。次年度も、「島根県産つや姫の美味しさに関する研究」を目的として、「つや姫」の食味に与える効果について、官能試験等の手法を用いて検討し、データの提供・技術協力を行う。

このほか、また、バスケットボール部員の食事調査と身体計測を組み合わせ、競技力向上への取り組みを健康栄養学科教員(酒元誠治教授)および学生6名が松江東高校男子バスケットボール部および松江商業高校女子バスケットボール部と連携して行った。

また、難病患者会の活動支援のため、健康栄養学科教員および学生がボランティアとして活動した。[炎症性腸疾患患者会研修会「陽だまりの会(松江市)」(10月4日、教員1名、学生2名)、「はなみずきの会(浜田市)」(12月7日、教員1名)、「大田市」(9月28日、教員1名)、「倶楽部UCD(出雲市)」(7月27日、教員1名、学生1名)、小児糖尿病患者会「第41回小児糖尿病大山サマーキャンプ(主催:日本糖尿病協会島根県支部「大山家族)」(8月3日～10日、教員1名、学生2名)]。

【保育学科の地域活性化支援】

保育学科においては、福井一尊准教授が、島根県保育所(園)・幼稚園造形教育研究会顧問として県内保育所・幼稚園に連携協力し、平成26年11月21日に本学で園児の絵画作品審査会を実施した。同審査により選ばれた園児の作品は、島根県立美術館で平成27年1月15日から19日まで「第10回島根県保育所(園)・幼稚園造形作品展」として展示・公開された。また、島根県西部からの入選作品は、1月22日から25日まで浜田市世界こども美術館でも展示・公開された。

また福井一尊准教授は、平成26年12月3日に社会福祉法人島根県社会福祉協議会主催の「平成26年度島根県障がい者アート作品展」において、審査委員長として絵画・書・写真・デザイン・工芸等作品の公開審査を行った。本展覧会は12月6日から8日まで島根県立美術館で開催された。

また、平成23年度に山下由紀恵教授・森山秀俊教授・福井一尊准教授が、NPO法人あしぶえ・松江市健康福祉部子育て課との共同研究を通じて開発した「松江発ー保育専門職のための『表現とコミュニケーション』ワークショップ・プログラム」の効果を土台として、昨年度に引き続いて本

年度も保育学科の正課「児童文化」にNPO法人あしぶえによるワークショップを組み込み、一部連携した授業を実施した。

【総合文化学科の地域活性化支援】

総合文化学科では、しまね多文化共生ネットワークとの共催による「医療英語勉強会」(ラング クリス講師)の開催、英語絵本の読み聞かせ(小玉容子教授)、卒業プロジェクトおはなしゼミによる読み聞かせボランティアの実施(岩田英作教授)、NPO松江ツーリズム研究会と連携した文化資源をツーリズムに生かす実践活動(小泉凡教授)、(社)鉄の歴史村地域文化研究所・(株)吉田ふるさと村と連携した観光教育の実践(工藤泰子准教授)など、昨年度に引き続き、活発な活動が行われた。

*「キッズイングリッシュ」の英語絵本読み聞かせ活動

平成26年度の「キッズイングリッシュ」(担当は小玉容子教授、キッド ダスティン講師、総合文化学科2年前期)受講生33名は、おはなしレストランライブラリーで「英語絵本の読み聞かせ」を行った。6月から10月にかけて、絵本や紙芝居の読み聞かせと歌や手遊びなどを組み合わせ、20分程度の時間で計20回実施した。



学生たちは、出版されている絵本だけでなく、授業で作成した教材なども用いて、児童英語教育実践活動を行うことができた。子供たちだけでなく保護者も一緒になっての活動となった。また、学生の実践力向上にとって貴重な体験となった。

*医療英語勉強会

「医療英語勉強会」は、島根に住む外国人を対象とした医療通訳育成・技能向上を目的として実施中の事業である。しまね多文化共生ネットワークと連携し、平成20年4月から平成27年3月にかけて、月に一度金曜日の午後2時間ほど勉強会を実施している。勉強会参加者は、10名程度である。(担当はラング クリス講師)

勉強会では、実際の医療場面を想定したテキスト文の日本語から英語への翻訳学習を行ない、診療科ごとの通訳会話役割練習を行なう他、医療に関する研究報告をビデオでみてから、ディスカッションすることで、医療英語を身につけることを目的とした。

*おはなしゼミによる読み聞かせボランティアの実施

総合文化学科の卒業プロジェクト「おはなしゼミ」(担当は岩田英作教授)の学生たちは、毎週金曜日、松江市立忌部小学校で読み聞かせの活動をしている。この取組みは、平成21年度から継続して行われており、1学年20名程度のクラスで、全学年で絵本を開いて子どもたちと向き合っている。

*ミステリー・ツアーの企画・実施

昨年度に引き続き、島根の文化資源をツーリズムに活用する実践としてミステリー・ツアー

を企画・実施した。実施日は9月13日(土)で、訪問先は参加者に事前に明かさない。小泉凡教授がNPO法人松江ツーリズム研究会旅行事業部と連携して企画・運営・当日の講師をつとめた。26年度は、金屋子神社、羽内谷鉄穴流し跡地、大原新田、櫻井家住宅など安来市山間部と奥出雲町のたたら製鉄ゆかりの地を訪問した。39名が参加した。

*吉田町における観光教育の実践

工藤泰子准教授は、昨年度に引き続き、地(知)の拠点整備事業平成26年度しまね地域共育・共創研究助成金を受け、「学生の視点を活かした観光振興の可能性を探る一雲南市吉田町を事例に」と称した活動を行った。吉田町の地域活性化に取り組む(一社)鉄の歴史村地域文化研究所、(株)吉田ふるさと村の人々と連携した観光教育を実践した。

*松江カラコロ工房の実態調査

「まちづくり学」(総合文化学科2年後期選択科目、担当は工藤泰子准教授)の履修生22名と有志学生9名(計31名)は、NPO松江ツーリズム研究会の依頼を受け、施設来訪者のヒアリング調査を実施した。10月3日(土)、4日(日)に来訪者273名を対象に調査した後、グループに分かれてデータの入力・分析を行い、12月18日に報告会を実施した。調査結果は報告書にまとめ、関係機関に配布した。



(2)自治体等との連携

松江キャンパスは、平成19年度に松江市との連携協力協定を締結し、その後は協定を踏まえ、教育連携協議会の開催や、「公開講座」でまつえ市民大学と連携するほか、松江市主催行事に本学教員と学生が協力するなど連携を強化している。正課教育において、松江市職員を非常勤講師とする複数の専門科目講義・実習、松江市立施設・学校における実習も継続して実施している。

【松江市主催文化教育行事への協力】

・「第11回子ども塾―スーパーヘルンさん講座」への協力

松江市観光文化課および「子ども塾実行委員会」主催による、子どもの五感力育成の教育実践である標記事業に、総合文化学科の小泉凡教授が塾長として、小倉佳代子学科専門コーディネーターが企画・運営・実施に協力した。期間は、平成26年7月25・28・31日、会場はカラコロ工房周辺。

・小泉八雲110年祭まつえ実行委員会への協力

総合文化学科小泉凡教授は、松江市観光振興部観光文化課主管の同事業の実行委員長として朗読座「日本の面影」公演(6月27日・28日)、小泉八雲朗読ライブ(9月14日)、ヘルンさんに手紙を書こうプロジェクト(2月28日表彰式)などの企画・運営に携わる。

・「アイリッシュ・フェスティバル in 松江 2015」への協力

松江市・(財)松江市観光開発公社・松江商工会議所・山陰日本アイルランド協会・南殿町商店街が実行委員会を組織してアイルランドと松江の文化交流・松江の文化振興および中心市街地活性化の目的で実施する行事で、平成27年3月8日に開催。

総合文化学科小泉凡教授・工藤泰子准教授・小倉佳代子地域連携コーディネーターが実行委員として、松江キャンパスのティンホイッスル・サークル、総合文化学科1・2年生約10名の学生がボランティア・スタッフとして参加した。

・「共創・協働マーケット」

松江をよくする提案を共有し事業につなげる場として、松江市主催「共創・協働マーケット2015松江」(2015/02/19)が今年度初めて開かれた。学外からは、大学への求めを知る機会となり、大学からは、しまね地域共生センターおよび学生ボランティア活動、おはなしレストランライブラリーの紹介を中心に、大学にできることの可能性を広報した。

【自治体と連携した共同研究】

・平成26年度は、島根県立大学北東アジア地域学術交流研究助成金を受け、健康栄養学科教員および学生が、松江市と共同で、食育の地域貢献プロジェクト「大学、行政、地域の連携による、青年層への食育プログラムの開発」を行った。

・『松江市史』の執筆協力

総合文化学科工藤泰子准教授は、『松江市史(近現代通史編)』(平成31年出版予定、担当部署:松江市資料編纂室)における、戦前・戦後の松江の観光に関する研究・執筆の協力を行っている。

・山下由紀恵教授は、総合文化学科の鹿野一厚教授、保育学科の矢島毅昌講師、同福井一尊准教授と共同で、平成25年度より引き続き、島根県立大学北東アジア地域学術交流研究助成金による共同研究「地域資源と協同的体験を保育教育課程に生かす『ふるさと教育』の研究 - 島根県益田市モデル -」を実施した。完成年度となる平成26年度も、益田市保育研究会、益田市教育委員会、益田市市民活動推進協議会、NPO法人アングンテ21、島根県教育委員会、島根県中山間地域研究センター等と連携して研究を行った。平成27年1月12日には、島根県芸術文化センターグラントワにて、NEAR共同プロジェクト最終成果報告会が開催された。報告会は、益田市保育研究会によるふるさと教育報告会「保小連携の取組みと可能性」と学外コアメンバーの無藤隆先生(白梅学園大学大学院教授)による講演会「最初の15年間の教育をどう組み立てるか」(参加者約100名)、ならびに併設ギャラリーでの展示会「子どもたちの活動Outcomeアート展」で構成され、自治体と連携した共同研究の成果が多様な内容・形式にて発表された。

【松江市成人式実行委員会への協力】

総合文化学科2年の福島瑞生氏は平成27年松江市成人式実行委員会の委員長として総合文化学科2年の平田春陽氏は委員として、同実行委員会の企画・運営に携わった。

【松江市立女子高等学校との連携】

・松江市立女子高等学校によるキャンパス見学と卒業生交流会

松江市立女子高等学校1年生のキャリア教育推進に協力して、1年生全員(106名)のキャンパス見学会を実施した。平成26年10月21日14:30から16:40まで、施設見学と模擬授業を実施した。模擬授業は、地域連携推進委員会から小泉凡教授により「妖怪学入門」というテーマで行われた(会場:大講義室)。講義後に同じ大講義室で、松江市立女子高等学校卒業の本学学生(5名)との交流会があり、質疑応答が行われた。

【正課授業における連携協力】

・保育学科専門科目における、学外の専門職現任者および経験者による講義——保育学科専門科目「障害児保育Ⅰ」(1年後期必修科目・1単位)の非常勤講師として、松江市立発達・教育相談支援センター所長の河井克典講師、同指導主事の金山由美子講師、松丘加奈講師、山根司津子講師により、支援の必要な子どもの実態や松江市の取り組み・関係機関との連携等についての講義が行われた。保育学科専門科目「児童館(児童クラブ)の機能と運営」(1年後期選択科目・2単位)の非常勤講師として、松江市立東津田児童館の石倉優子講師により、実際の児童館活動に関する講義が行われた。保育学科専門科目「乳児保育」(2年前期必修科目・2単位)の非常勤講師として、元松江市子育て支援センター所長の井上恵美子講師により、長年にわたる豊富な現場経験を基に講義が行われた。保育学科専門科目「地域福祉論」(2年後期選択科目・2単位)の非常勤講師として、元松江市社会福祉協議会常務理事の須田敬一講師により、松江市における地域福祉の実践例を通じた講義が行われた。

・総合文化学科専門科目においては、以下の通り、学外の専門職現任者および経験者による授業や協力が行われた。「しまねツーリズム論」(文化資源学系2年後期選択科目・1単位)の学外講師として、島根県商工労働部観光振興課誘客推進グループリーダーの石橋睦郎氏、松江市産業観光部国際観光課長の宮廻智美氏が授業(各1回)を担当した。また現地研修において、「地域探検学」(文化資源学系1年生前期選択科目・1単位)では奥出雲町地域振興課、「日本文化演習」(日本語文化系2年生前期選択科目)では島根県立美術館、「ミュージアム論」(文化資源学系1年生後期選択科目)では島根県立美術館と松江歴史館の全面的な協力を得て授業を実施した。

・松江市立施設・学校における実習協力——健康栄養学科・保育学科の専門科目実習について、松江市立病院、松江市立学校給食センター、松江市立保育所、松江市立幼保園のぎ、松江市立幼稚園が協力し、実習指導を行っている(実習欄に別掲)。

・松江キャンパス近辺の幼・小・中学校との密接な連携協力——学生ボランティアが、松江市立幼保園のぎ、松江市立乃木小学校、松江市立湖南中学校等と、教育上の密接な連携協力を行っている。

このような緊密な教育上の連携を踏まえて、平成27年2月12日に包括協定を結ぶ松江市と「松江市・島根県立大学短期大学部松江キャンパス・教育連携協議会」、併せて、その他の自治体・団体との「島根県立大学短期大学部松江キャンパス・教育連携協議会」を開催し、実習協力や講師

派遣について実務的に連携を協議した。実施要綱は、以下のとおりであった。

【平成26年度 松江市・島根県立大学短期大学部松江キャンパス教育連携協議会】

実施要綱

1. 目的

- ・平成19年度の「松江市島根県立大学包括協定」にもとづく相互協力の趣旨に基づき、松江市と松江キャンパスの具体的な教育連携事業を見直す。
- ・年度末に、次年度のスムーズな相互協力関係に向けて、教育連携事業における実務的な協議を実施する。

2. 主催 島根県立大学短期大学部松江キャンパス

3. 会場 島根県立大学短期大学部松江キャンパス大会議室

4. 日時 平成27年2月12日(木) 13時30分～14時30分

5. 議題

- ・実習(栄養士・保育士・幼稚園教諭)受け入れ協力についての情報交換
- ・講師の相互派遣についての計画
- ・共同研究・受託研究について
- ・施設使用の協力についての計画
- ・その他

6. 松江市側参加者

- ・政策部政策企画課副主任 大塚裕理(包括協定担当)
- ・松江市教育委員会 教育総務課長 須山敏之
- ・健康福祉部 子育て課長 岩田光弘
- ・産業観光部 観光文化課長 二村 眞
- ・松江市発達・教育相談支援センター(エスコ)所長 河井克典

7. 松江キャンパス側参加者

- ・副学長 山下由紀恵
- ・健康栄養学科長 名和田清子
- ・保育学科長 岸本 強
- ・総合文化学科長 鹿野一厚
- ・地域連携推進センター副センター長 小泉 凡
- ・地域連携推進センター(教育連携担当) 福井一尊
- ・事務室長 樋野輝男
- ・管理課長 岩本幸治

【平成26年度 島根県立大学短期大学部松江キャンパス・教育連携協議会】

実施要綱

1. 目的

- ・年度末に、次年度のスムーズな相互協力関係に向けて、教育連携事業における実務的な協議を実施する。

2. 主催 島根県立大学短期大学部松江キャンパス

3. 会場 島根県立大学短期大学部松江キャンパス大会議室

4. 日時 平成27年2月12日(木) 14時40分～15時40分

5. 議題

- ・フィールドワークの受け入れ協力についての情報交換
- ・本学授業への講師派遣と次年度授業の計画
- ・共同研究・受託研究について
- ・施設使用の協力についての計画
- ・その他

6. 教育連携関係団体および参加者 ※順不同

- ・特定非営利活動法人あしぶえ 有田 幸
- ・奥出雲町地域振興課 樋口正弘
- ・一般社団法人 鉄の歴史村地域文化研究所 高木朋美
- ・NPO法人 松江ツーリズム研究会 山下武之
- ・出雲市地域づくりアドバイザー 吾郷秀雄

7. 松江キャンパス側参加者

- ・副学長 山下由紀恵
- ・健康栄養学科長 名和田清子
- ・保育学科長 岸本 強
- ・総合文化学科長 鹿野一厚
- ・総合文化学科教授 工藤泰子
- ・地域連携推進センター副センター長 小泉 凡
- ・地域連携推進センター(教育連携担当) 福井一尊
- ・しまね地域共生センター学科専門コーディネーター 山尾淳子・小倉佳代子
- ・事務室長 樋野輝男
- ・管理課長 岩本幸治

5. 学生による地域貢献活動

【学生の自主的なボランティア活動】

平成22年度より、島根県立大学「学生地域ボランティア活動推進事業」の一環として、学生のボランティア保険加入を支援している。26年度の学生のボランティア保険加入は、498名。また学生の活動先は、以下のとおりであった。

●障がい者・高齢者支援ボランティア

「東部島根医療福祉センター」「松江医療センター」「かんどの里」ほか

●障がい児支援ボランティア

「ふるさとあったかスクラム事業」「児童発達支援センターわっこ」ほか

●島根県立青少年の家(サン・レイク)ボランティア

●松江市立幼保園のぎボランティア

「のぎっこまつり」「運動会・園児援助」

●保育所・幼稚園・学童保育ボランティア

県内外の幼稚園・保育所・小学校(個人)

「放課後のぎっこ広場」「安来市立十神小学校」「みのり黒田保育園」ほか

●災害ボランティア

東日本大震災「島根県災害ボランティア隊」(岩手県沿岸部)

●「アイリッシュ・フェスティバルin松江」運営補助

●「第11回子ども塾－スーパーヘルンさん講座」運営補助

●「第12回松江神在月だんだんウォーク」運営補助

●「松江シティフットボールクラブ」試合運営

●「第21回2014松江市環境フェスティバル」運営補助

●「米-1グランプリ2014」運営補助

●「第8回ひらた100km徒歩の旅」運営補助

●「平成27年松江市成人式」企画運営

●「古事記・神話ふるさとフェスティバル2015」運営補助

●一畑電車「クリスマス・トレイン」企画運営

この他、島根県内外の多くの地域イベントや保育園(所)・幼稚園、小学校、公民館などにおいて、個人でボランティア活動を行った。また障がい児とその家族を対象とした学生自主企画「おかしをつくろう」をハートピア出雲の協力のもと実施した。

【キラキラドリームプロジェクト】

今年度で2回目となるキラキラドリームプロジェクトは、学生が企画する独創的なプロジェクトに対して、大学が費用を補助し、夢の実現を応援している。学生の自主性・積極性・創造性を思う存分発揮できる機会を提供し、より



充実した学生生活を送ってもらうことを目的としている。平成26年度は5組の団体が公開審査会でプレゼンテーションをおこない、4組の事業が採択された。

●平成26年度の採択プロジェクト

✓ ドリーム枠(30万円)

◇Let's 縁きりふれっしゅ ～松江ではじまる新しい自分旅～

松江市立女子高校時代に「観光甲子園」でグランプリを受賞した旅行企画を大学で実現化する。嫌な自分と縁を切り、新しい自分に生まれ変わってもらう、「自分を変える旅」をし、参加者に松江の魅力を再発見してもらう。

✓ キラキラ枠(10万円)

◇食育ボードゲーム製作プロジェクト

健康栄養学科の学びを活かして、小学生向け食育ボードゲームを製作し、食育について遊びながら楽しく学んでもらう。そのための普及活動もおこなう。

◇怪談スイーツプロジェクト

小泉八雲の怪談にまつわるお土産を開発し、松江の観光を盛り上げる。

✓ 審査員特別賞(20万円) ※一般社団法人松江観光協会からの寄附金

◇島短活性化大作戦

島根県立大学短期大学部の広報チームを結成し、大学の魅力や地域の魅力を女子学生目線で発信する。また、大学に近い玉造温泉街の学生向けフリーペーパーを作ったり、プロモーション映像を制作しインターネット配信をおこなう。

●審査会の様子



▲プレゼンテーションに向けて、入念な準備をして挑みます。会場は熱気に包まれ、真剣そのものです。



▲自分たちの夢を語り、全てを出し切った後の安ど感で思わず笑みがこぼれます。

採択プロジェクトのうち、産学協同で怪談のお土産作りをおこなった「怪談スイーツプロジェクト」の活動内容を紹介します。当プロジェクトは、小泉八雲の怪談に関連したお土産を開発することで、より怪談のふるさと松江を楽しんでもらい、松江の観光を盛り上げるという企画。商品コンセプト、ネーミング、パッケージデザイン等を学生が考案し、中浦食品株式会社の協力で商品化が実現した。

ゴーストみやげ研究所「怪談スイーツプロジェクト」

● メンバー

総合文化学科1年 大峠百花・伊藤瑳紀・佐々木麻衣・佐々木七海・香川詩保里

● チーム名

ゴーストみやげ研究所

● 概要

怪談にまつわる観光地が松江ゴーストツアーなどで紹介されているにも関わらず、松江には怪談のお土産がない。そこで目をつけたのが松江といえば「和菓子処」ということ。そして松江の観光で注目されてきている「怪談」。この二つを合わせて怪談にまつわるお菓子を企画したい！と思いついた。そして怪談といえば、本学教授の、小泉八雲のひ孫、小泉凡先生。

先生のもとでお菓子と怪談をコラボさせることができるのは私たちだけ。そんな小泉先生のもとで怪談のお土産を企画し、販売することで松江を怪談のふるさととして盛り上げるお手伝いをしていこうと思いついた。



▲ゴーストみやげ研究所の
ロゴマーク

● 活動内容

お菓子のテーマ決めから製作へ

松江＝怪談や松江＝小泉八雲を知らない人にも興味をもってもらえるよう、認知度の高い怪談のお話を題材にしたいという思いがあった。そこで、テーマは「耳なし芳一」にすることに決めた。

次に、地元で多くのお土産を作っておられる実績のある中浦食品株式会社さんに相談したところ、快く引き受けてくださり、今回の企画が実現した。



耳なし芳一の話に登場する、芳一の耳を題材にすることが決まってからお菓子の種類を決めたが、まんじゅうとクッキーでとても悩んだ。まんじゅうだと耳の形がとてもリアルになってしまい、手にとりにくくなってしまわないか。多くの方に手にとっていただくためにはどのような工夫が必要なのかを中浦食品さんと相談した上で今回のお菓子が出来上がった。

いちじく味にした理由は、いちじくの産地島根町は小泉八雲が好んだ加賀の潜戸があり、小泉八雲と関わりがあったから。耳なし芳一のお話で芳一は琵琶法師なので枇杷(ビワ)味という案もあったが、試食をした上でいちじく味に決定した。

パッケージデザイン

ターゲットに据えた20代から30代の怪談好きな女性に喜んでもらう、ということに加え、怪談に興味のない方にも手にとってもらいやすいお土産を目指した。怪談っぽさを残しつつ、親しみやすさを表すために、メンバー間で“渋かわいさ”をコンセプトにイメージを検討した。デザインは、地元のデザイン会社、あしたの為のDesignに依頼をした。

購入していただいたお客様に、「この商品を手にしたからこそ得られた」と思える情報も届くように、パッケージや同梱するしおりを工夫した。怪談は怖いだけでなく、哀しく美しいもの。そのことをパッケージデザインとしおりで伝えようと努力した。



▲「ほういちの耳まんぢう」パッケージ

いよいよ発売開始の記者会見

小泉八雲の命日であり、「ほういちの耳まんぢう」発売開始日とした9月26日に、小泉八雲旧居前の、八雲の銅像の前で記者会見をおこなった。中浦食品株式会社の鷗鶴専務をはじめ、小泉凡先生にも出席いただいた。ゴーストみやげ研究所のメンバーは、一人ひとり商品開発で自分が力を入れた部分などを説明した。記者会見の前には、劇団幻影舞台の清原真様に「耳なし芳一」の朗読をしていただき、小泉八雲の怪談の世界観を感じた後で記者会見に臨むことができた。多くの報道関係者にお越し頂くことが出来た。



試食販売

発売開始記者会見の翌日、先行販売を始めた島根県物産観光館で店頭販売をおこなった。試食を薦めたり、どういうお菓子なのか説明をしたりと初めてのことで戸惑いながらの店頭販売だった。テレビやラジオ、新聞等の報道を見て、知っていてくださっている方が多かったのが印象的であった。



飛鳥祭

初めて自分たちだけで販売をしたので、手順も分からずバタバタしながらの販売だった。あまり売れないと思っていた箱入りのほうが思いのほか売れ、両日共に完売状態となってしまう、買えなかった方も多くおられたのが申し訳なかった。準備が不十分で、途中にお金を崩して両替に充てたり、買い出しに出掛けたりしてしまっただが、今後につながる課題を見つけることができた。



今後に向けて

年末に、今後の「ほういちの耳まんぢう」の展開について中浦食品株式会社の鷗鶴専務とお話をした。イベントや売り場でのお客様の反応を商品にフィードバック出来たらと思う。

ゴーストみやげ研究所としては、第2弾の商品開発や、ホームページ・SNSを使って情報発信をするなど活動を続けていきたい。



学生のコメント

【総合文化学科1年 大峠百花】

大学に入ったら、島根県のお土産を作りたい！と考えていたので、夢を叶えることができ本当に嬉しかったです。しかし、初めての商品開発と代表という立場は、決して簡単なものではありませんでした。商品開発で一番苦労したことはスケジュール管理です。約2か月という限られた時間の中で、自分たちの納得のいくものを作ることはとても大変なことでした。スケジュール管理を怠ったせいで、つきつめることができなかった点もあり、悔しい思いをしました。また、企業の方にも無理を言ってたくさん迷惑をかけてしまいました。このような経験から、スケジュール管理は起こりうる事態を想定しながらするという、想像力が必要なことだということに気づかされました。

また、代表という立場もとても大変でした。対立する意見をまとめること。たくさんアイデアから一つのものを生み出していくということ。そして、リーダーのあり方を考えることです。私は、このような大きなプロジェクトで代表を務めたことはなく、ゼロからのスタートでした。活動を進めていく中で、物事をうまくまとめることができず、自分の無能さを痛感する日々でした。また、自分よりも有能なメンバーに囲まれ、自分はリーダーとしての務めを果たしていないということに、苦しい思いもしました。しかし、あるリーダーの方から「リーダーは方向性を示せばいい。舵取りはメンバーがする」

と教えられたこと。そして、メンバーから「ゴーストみやげ研究所のリーダーはあなたじゃないといけなかった」と言われたことで、自分らしいリーダー像を確立することができました。

最初は自分の高まる気持ちに能力が追い付いていないと感じていましたが、今は感じません。苦しい状況に揉まれていたら、いつのまにか自分が成長していたのです。学生のうちにこのような経験ができて本当に一生ものの財産になりました。最後に、学校関係者の方々、協力してくださった企業の方々に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

【総合文化学科1年 伊藤瑳紀】

今回の学生での商品開発は、私にとって以前からあこがれだったので、実際にできたことは夢が叶ってとても嬉しいものでした。商品ができるまでの過程も実感を持って知ることができましたし、ひとつの商品もたくさんの人の協力によって出来ていることを知りました。話し合いやイベントでいろいろな場所に行ったことも、様々な社会人の方と話をする機会となり仕事や世の中に対する考えが広がったと感じています。また、ゴーストみやげ研究所の活動を通して、自分の出来ること、苦手なこと、得意なことについて今までより強く考えることが増えました。私は今まで、どちらかという気持ち重視でしたが、理想もあるけど実際に自分にできるか、予定の管理など現実的なことも考えることの必要を、ひしひしと感じさせられました。これじゃダメだと思うこともたくさんあり大変な活動でしたが、これから社会で生きていくための自分の中の土台を、根底からひっくり返して見直す機会となり、とても貴重な経験をさせていただいたと思います。親や友人、また様々な社会人の方にアドバイスをもらったこと、支えていただいたおかげでここまで有意義な活動にすることができました。

【総合文化学科1年 佐々木麻衣】

松江の観光をもっと盛り上げたい！松江の地域振興のためになにかしたい！と思っていたところ、大峠さん、伊藤さんと意気投合し、キラキラドリームプロジェクトを始めたのが全てのきっかけです。

怪談のふるさと松江を提唱しながら、怪談にまつわるお土産がない。そんな状況を打破しようと考えついたのが「ほういちの耳まんぢう」です。怪談をモチーフにするというのは、なかなか手にとってもらいにくいのではないかと不安に思っていたのですが、実際に売り上げ情報を伺ったところ、自分の想像以上の売り上げにとっても嬉しく思いました。

ゴーストみやげ研究所として「ほういちの耳まんぢう」を企画したことは、短い短大生活の中でも自分を成長させる多くのものを得るきっかけとなりました。私たちの活動は自分たちの力だけで成功したとは思っていません。中浦食品株式会社さまをはじめ、あしたの為のDesignさま、河内さま、大学からの支援があってこそです。心から感謝いたします。ありがとうございました。

【総合文化学科1年 佐々木七海】

発案からプレス発表まで実質、夏休みの2か月間ととても短いスパンで行ったので、

とにかく目が回るほど忙しく、そして充実した2か月間でした。その中で、スケジュール管理がうまく出来ず、どうしても時間が足りなくて悔しい思いをしたこともありました。そして、私がこのプロジェクトでたくさんのことを知りました。自分たちがきちんと締め切りを守らないと、一緒にプロジェクトを進めている企業さんやデザイン会社さんの負担を増やして迷惑をかけてしまうこと。チームワークの難しさ。自分たちの思いとその実現性とのバランスを考える大切さ。そして、たくさんの方に支えていただき、商品が完成した時の達成感や感動。プロジェクトはとても大変でしたが、実際に商品を食べたお客様から「美味しい」という言葉をいただいて、やってよかったと思いました。

【総合文化学科1年 香川詩保里】

お菓子をおまんじゅうにするかどうか、形はどうするか、パッケージデザインをどのようにするかなど、どう判断すれば納得のいくものができるか悩み、5人の意見がなかなかまとまらず大変でした。特にパッケージデザインのコンセプトを決めてデザインの方向性を決めるのに苦労しました。また、私はパッケージの中に入れるしおりのデザインや文章を担当したのですが、時間と戦いながら数日間で仕上げたことは良い思い出です。最終的に、しおりや箱の青柳や椿のモチーフ、その裏面の小泉八雲と松江の説明文など、私たちがお客さんに伝えたいことを盛り込んだ、納得のいくお土産を作ることができてとても満足しています。

商品の企画に携わってみて初めて、多くの人の想いや努力があってこそ、商品ができるのだと実感しました。思うようにいかないとき、仲間と励ましあうことだけでなく、教務学生課の方々や、企業の方からの助言に助けられました。いろんな方々の応援あってこそ、『ほういちの耳まんぢう』は無事完成しました。私たちを支えてくださった方々に感謝しつつ、次の新たな活動に向けて、これからも頑張ろうと思います。

【ボルケーノの活動】

ボランティアサークルvolcano(ボルケーノ)では、地域活動を中心に取り組んでいる。主なものに、10月「飛鳥祭」において、「防災プログラムを体験してみよう」と題して、日本赤十字社の協力を得て、防災についての講話、ビデオ上映、炊き出しの体験を実施し、本学学生や地元の方々が参加した。11月には、「松江神在月だんだんウォーク」運営スタッフへの参加、1月には短大キャンパスも位置する浜乃木七丁目の国尾自治会による「とんど祭」に部員7名が参加し、運営補助をおこなった。今後、これを契機として、短大生が毎日お世話になっている地元の自治会の方々との交流を活発化していく予定である。

また、本年も1年生1名が8月27日から9月8日の13日間、「いわてGINGA-NETプロジェクト夏銀河2014」に参加し、東日本大震災による復興支援をおこなった。さらに、広島県の土砂災害に対する義援金として募金活動をおこない、日本赤十字社に届けた。

学内におけるボランティア啓発のため、部員やボランティアに参加した学生が、各自のボラ

ンティア体験内容を語る「あったかれっじ」を3回にわたり開催し、また上記を含めさまざまな活動内容はfacebookで公開を始めた。



◆「防災プログラムを体験してみよう」



◆国尾自治会による「とんど祭」

【茶道部の活動】

茶道部では、茶道を通してお茶どころ松江における毎年地域貢献活動を実施している。今年度は、10月「松江水燈路」のイベント（松江市観光振興公社）において、堀川遊覧船夜間運行での野点船（お茶席船）を二日間にわたり実施した。夜の堀川遊覧船上において、ほのかな光と水の音という静かな雰囲気の中で、地元の方や観光客に御抹茶と和菓子を楽しんでもらっていた。

また、11月「おとめ在月」のイベント（山陰中央新報）においては、若い世代に向けた茶の湯文化の発信として、おとめ茶会の運営に協力した。地元クリエイターによるオリジナル茶碗から好みのものを選び、それを用いてお点前を披露する「現代茶席」、また、屋外での展示車両を茶席に見立て、周辺に席を設けて同じく選んだ茶碗でお茶を楽しんでもらう「女子流クルマの楽しみ方～茶の湯編～」において、部員がお点前を担当した。部員は揃いのワンピースを着用し、現代風の新しいお茶席のかたちを披露した。

【ティンホイッスル・サークルの活動】

平成26年6月8日（日）カラコロ広場にて京店商店街協力のもと開催された、島根大学・県立大学松江キャンパス学生主催の地域活性イベント「Cafe×Bar灯」でアイルランド音楽の演奏をした。平成27年3月7日（土）・8日（日）に開催されたアイリッシュ・フェスティバルin松江2015のセント・パトリックス・デイ・パレードで演奏を披露しながらパレードに参加するとともに、アイリッシュ・パブ「シャムロック」や屋台村の設営等、イベントのボランティア・スタッフとして協力した。

6. 教育機関等との連携—保・幼・小・中・高・大の教育連携

初等中等教育機関との教育連携については、平成18年度の協定締結以降、各学科における松江市立幼保園のぎ・松江市立乃木小学校・松江市立湖南中学校・松江商業高校との緊密な連携協力のもと、教員による特別授業のほか、学生による読み聞かせ実践・食育実践指導等の連携事業を実施し、教育的成果をあげている。

【大多和学園との連携協力】

26年度より新たに連携協力協定を結んだ学校法人大多和学園とは、同校への非常勤講師の派遣、連携協力会議の開催(8月26日)、大多和学園(開星中学校・高等学校)で開催された島根県私学教育研修会への参加を通して、教育連携の進展をはかった。

【連携校協議】

平成26年6月13日に、幼保園のぎ、乃木小学校と松江キャンパスの三者連携会議を松江キャンパスで行った。また、平成26年5月16日と平成27年2月24日に、湖南中学校、松江商業高校、松江キャンパスの三者連携会議が、松江商業高校で行われた。なお、26年度は松江商業高校が当番校として三者連携会議を推進した。

このような緊密な教育上の連携をふまえて、「連携校教育研究会」が8月18日に松江商業高校で開催された。講師は島根県教育庁教育指導課キャリア教育推進スタッフ・多々納雄二調整監、テーマは「しまねのキャリア教育—やる気・学習意欲につなげるキャリア教育—」。初等中等教育におけるキャリア教育の状況を知る上で、有意義な研究会となった。

平成26年度松江キャンパス教育機関との連携事業

機関名・事業名称	本学担当者	事業内容	期間	本学参加学生	備考
松江市立乃木小学校	健康栄養学科 教授 直良博之 嘱託助手 葉迫靖子	食育授業	平成26年度 12月13日	健康栄養 4名	5年生165名参加
浜田市保育連盟	保育学科 教授 岸本 強	浜田市保育連盟研究委員会 代表者会講師	平成26年 5月、6月、8月		
松江市立野波保育所	保育学科 教授 岸本 強	松江市立野波保育所研修会 講師	平成26年 5月、6月、8月、10月		
島根県保育協議会	保育学科 教授 岸本 強	第58回島根県保育研究大会 第1分科会 助言者 講話「今、幼児期に求められる運動と遊び」	平成26年 11月		
松江市保育協議会	保育学科 教授 岸本 強	第8回松江市保育研究大会 第3分科会 指導助言者 講話「今、幼児の運動と遊び—環境の有効性—」	平成26年 11月		

機関名・事業名称	本学担当者	事業内容	期間	本学参加 学生	備考
岡山県柵原東小学校	保育学科 准教授 福井一尊	あっ晴れ!おかやま子ども未来 塾「美術館 学校出前講座」	平成26年 10月7日	健康栄養 4名	小学6年 生 20人
岡山県柵原西小学校	保育学科 准教授 福井一尊	あっ晴れ!おかやま子ども未来 塾「美術館 学校出前講座」	平成26年 10月14日		小学6年 生 39人
松江市立湖南中学校	総合文化学科 教授 小泉 凡	総合的学習の時間「地域探検 の魅力」	平成26年 6月2日		湖南中 1年生 180名
松江市立 内中原小学校	総合文化学科 教授 小泉 凡	英語活動の時間「小泉八雲と アイルランド」	平成26年 12月9日		内中原小 4年生 129名
松江市立湖南中学校	総合文化学科 教授 高橋 純	総合的学習の時間「発表の行 い方について」	平成26年 9月11日		湖南中 1年生 180 名
松江市立幼保園のぎ	総合文化学科 教授 マユアキ 教授 岩田英作	3学科共通科目「読み聞かせの 実践」	平成26年5 月～平成27 年1月	保育6名 総文45名	
松江市立乃木小学校	総合文化学科 教授 マユアキ 教授 岩田英作	3学科共通科目「読み聞かせの 実践」	平成26年5 月～平成27 年1月	保育6名 総文45名	
松江市立忌部小学校	総合文化学科 教授 マユアキ 教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト 「おはなしゼミ」	平成26年4 月～平成27 年2月	総文11名	
出雲市立久多美 小学校	総合文化学科 教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト 「おはなしゼミ」	平成26年 6月	総文4名	
島根県立三刀屋 高等学校	総合文化学科 教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト 「おはなしゼミ」	平成26年 7月	総文3名	
鹿島子育て支援 センター	総合文化学科 教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト 「おはなしゼミ」	平成26年 8月	総文2名	
掛合児童クラブ	総合文化学科 教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト 「おはなしゼミ」	平成26年 8月	総文3名	
那覇市立開南小学校	総合文化学科 教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト 「おはなしゼミ」	平成26年 8月	総文11名	
松江市立 しんじ幼保園	総合文化学科 教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト 「おはなしゼミ」	平成26年 9月	総文2名	
江津市立江津中学校	総合文化学科 教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト 「おはなしゼミ」	平成26年 9月	総文9名	
東出雲子育て支援 センター	総合文化学科 教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト 「おはなしゼミ」	平成26年 10月	総文2名	
松徳幼稚園	総合文化学科 教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト 「おはなしゼミ」	平成26年 10月	総文3名	
松江市立城北小学校	総合文化学科 教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト 「おはなしゼミ」	平成26年 11月	総文3名	

機関名・事業名称	本学担当者	事業内容	期間	本学参加学生	備考
松江市立八東保育園	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」	平成 26 年 12 月	総文3名	
出雲市立上津幼稚園	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」	平成 27 年 3 月	総文3名	
隠岐西ノ島町立西ノ島小学校	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」	平成 27 年 3 月	総文3名	
隠岐西ノ島町立シオン保育園	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」	平成 27 年 3 月	総文2名	
隠岐西ノ島町立みた保育園	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」	平成 27 年 3 月	総文1名	

出張講座（高大連携）の状況

（大学への派遣依頼を受け、専門領域の講義を高校生向けに行った場合）

期日	曜日	時間	テーマ（会場）	回数	担当者	相手先	
9月22日	月	13:00～15:00	学問のすすめ～栄養学では何が分かっていて、何が分からないのか～	1	酒元誠治（健康栄養学科）	島根県立大社高等学校	43
5月23日	金	9:00～12:50	五感でとらえた明治の松江～小泉八雲の世界～講義および現地研修	1	小泉 凡（総合文化学科教授）	松江市立女子高等学校	30
7月1日	火	14:00～16:00	文部科学省委託事業「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」に係る学校図書館公開講座	1	岩田英作（総合文化学科教授）	島根県立三刀屋高等学校	50

【健康栄養学科の教育機関連携】

松江市立乃木小学校での食育授業は、松江市立湖南中学校、松江市立乃木小学校との三者連携推進事業をきっかけに平成19年度から始まり、今年度で8年目を迎えた。健康栄養学科教員（直良博之教授、葉迫靖子嘱託助手）と学生4名が取り組み、朝ごはんの良いところやバランスの良い朝ごはんを児童と一緒に考えながら実施した。



▲松江市立乃木小学校での食育授業

【保育学科の教育機関連携】

保育学科の正課「児童文化」では、1年生2年生が合同で複数のパートに分かれて「児童文化」のための制作過程を学び、「ほいくまつり」開催によって地域の子どもたちと交流しつつ、大学での学びを還元している。この「ほいくまつり」の案内にあたって、松江市内保育所・幼稚園がポスター掲示・パンフレット配布に協力している。この「児童文化」の教育課程は、平成17年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」の選定を受けて全国的にも評価された。平成26年度「第41回ほいくまつり」は、平成26年7月5日(土)に島根県民会館大ホールで開催され、多くの親子が学生の作りだした歌唱・司会・影絵・劇などの「児童文化」を楽しみ学生と交流した。



▲島根県民会館大ホール入口:来場者と学生の交流



▲平成26年7月5日 第41回ほいくまつり 保育学科一同



▲島根県民会館大ホール入口:来場者と学生の交流

「ほいくまつり」とは？

私たち島根県立大学短期大学部保育学科は、毎年6月島根県民会館大ホールに1,500人の子どもたちとその保護者を招待して『ほいくまつり』を開催しています。

この『ほいくまつり』というのは、私たち学生が日頃学内で学んでいることを総合表現として舞台上で発表することを通して県の児童文化向上に寄与するとともに、地域の子どもたちや保護者の皆様に楽しく夢のあるひとときを過ごしてもらおうという趣旨で開催しているものです。

取り組みの軸となるのは実行委員会です。実行委員長、総合責任者、会計の三役を中心に各パートのリーダーを合わせた14人がその構成メンバーです。このリーダー会は定期的に開催され、各パートの要望や意見が交流されるとともに、話し合いを通じて方針が出されかつ総合的な指示が出されていくのです。

『ほいくまつり』の取り組みは、『児童文化』という授業の一環として行われますが、週に2回の授業の時間だけでは時間は全く足りません。そこで、準備はほぼ毎日、放課後残って行うこととなります。5月に入るとパート別のリハーサル、6月になると全体リハーサルが始まります。その場では先生方や他のパートの仲間たちから多くの課題点が出され、よりよいものを創るために各パートは議論をし、修正していきます。もちろん、なかなか自分たちの思うようにはいかず、みんなで悩みながら進めていくこととなります。しかし、その過程の中で協力することの大切さを学び、感性を磨いていくとともに、保育というものが要求する厳しさを知るのです。

当日、子どもたちの笑顔にたくさん出会えることは最高の感動ではありますが、同時に『ほいくまつり』の取り組み過程そのものが私たち自身に大きな自信と勇気と夢を与えてくれるのです。



【総合文化学科の教育機関連携】

総合文化学科では、岩田英作教授・マユアキ教授とともに、「読み聞かせの実践」を履修する学生(全学科)、卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の学生が、松江市乃木小学校、忌部小学校、幼保園のぎなどで、絵本の読み聞かせ活動を行った。(「8. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動」参照)

また、総合文化学科の教員は、湖南中学校の「総合的な学習の時間」に協力した。詳細は以下の通りである。

* 湖南中学校1年生「総合的な学習の時間」への協力授業

総合文化学科の2名の教員は、湖南中学校における総合的な学習の時間に、専門分野や総合文化学科の担当授業の内容を生かして、昨年に引き続き協力授業を行った。小泉凡教授の授業は平成26年6月2日「地域探検の魅力—松江再発見の旅—」、高橋純教授の授業は9月11日「発表の行い方について」であった。

7. 教育課程のための地域の施設・機関との連携

健康栄養学科、保育学科において実習先との連携の強化策を検討し、可能な部分から実施している。健康栄養学科では、栄養士養成のため各種給食施設等との緊密な連携を図っている。保育学科は、実習指導計画から実習評価に至るまで実習先と連携して実習成果の充実を図っている。

【健康栄養学科の実習施設・機関との連携】

栄養士免許を取得するためには、校外実習が必修である。平成26年度に実施した県内施設を下表に示した。実習終了後は、評価票の提出を求め、また、次年度の内容を検討する資料として、学生が作成した実習レポートを送付し連携を図った。また、実習先の管理栄養士を本学非常勤講師として招聘したり、学生を鳥根県栄養士会の研修会に参加させる等して連携強化を図っている。

平成26年度 校外給食実務実習依頼先一覧

地区	実習依頼先	実習人員	日程
鳥根	松江赤十字病院	4	9/1～9/5
			9/8～9/12
	松江市立病院	4	8/18～8/22
	医療法人 社団創健会 松江記念病院	2	8/25～8/29
	松江市立北学校給食センター	2	9/8～9/12
	松江市立南学校給食センター	3	9/8～9/12
	松江市立鳥根学校給食センター	1	11/5～11/11
	鳥根県立中央病院	3	8/25～8/29
	万田の郷	1	9/8～9/12
	出雲市立出雲学校給食センター	2	9/8～9/12
			10/20～10/24
	出雲市立平田学校給食センター	3	9/16～9/22
	出雲市立湖陵学校給食センター	1	9/8～9/12
	出雲市立斐川学校給食センター	1	9/12～9/19
	雲南市立病院	1	8/18～8/22
大田市立大田市学校給食センター	1	9/8～9/12	
益田赤十字病院	1	9/1～9/5	
鳥取	南部町立西伯給食センター	1	9/1～9/5
	智頭町立学校給食センター	1	9/8～9/12
広島	医療法人社団更生会 草津病院	1	9/1～9/5
	医療法人 紅萌会 福山記念病院	2	8/11～8/15
9/1～9/5			

地区	実習依頼先	実習人員	日程
山口	総合病院 山口赤十字病院	1	8/25,9/22～9/26
	独立行政法人地域医療機能推進機構 徳山中央病院	1	9/1～9/5
	田布施町立学校給食センター	1	9/1～9/5
岡山	一般財団法人津山慈風会 津山中央病院	1	9/8～9/12
兵庫	新温泉町立温泉学校給食センター	1	9/8～9/12
佐賀	佐賀市立本庄小学校	1	9/8～9/12

【保育学科の実習施設・機関との連携】

保育学科では、「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」「保育実習Ⅱ」については、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について（厚生労働省雇児発第1209001号）」にもとづき、保育学科が実習施設を選定して実習指導委員会を設けている。毎学年度の始めに、この委員会の協議によって保育実習計画を策定している。

平成26年度 保育学科実習実施施設・機関

区分	所在	施設・機関名	備考
保育所	島根県松江市	松江市立城東保育所、松江市立白湯保育所、しらとり保育所、しらゆり保育園、つわぶきこども園、つわぶき保育園、なかよし保育園、なの花保育園、みどり保育所、愛恵保育園、古志原保育所、松江ナザレン保育園、松江保育所、松尾保育所、嵩見保育所、袖師保育所、虹の子保育園、法吉保育所、あおぞら保育園、ふたば第三保育所、湯町保育所	1年前期・ 保育実習Ⅰ (保育所) 2年前期・ 保育実習Ⅱ
	島根県出雲市	ハマナス保育園、わたりはし保育園、神門保育園、神門第2保育園、荘原保育園、東部保育園、浜山あおい保育園、なかの保育園、おおつか保育園、あすなる第3保育園、ひかり保育園	
	島根県雲南市	雲南市立かもめ保育園、雲南市立三刀屋保育所、雲南市立大東保育園	
	島根県安来市	安来市立城谷保育所、安来市立安田保育所	
	島根県奥出雲町	阿井幼児園、八川幼児園	
	島根県大田市	大田市立大田保育園、サンチャイルド長久さわらび園、相愛保育園	
	島根県江津市	敬川保育所	
島根県美郷町 島根県浜田市	おおち保育園 れんげ保育園、あおい保育園		

区分	所在	施設・機関名	備考
保育所	鳥根県隠岐の島町 鳥取県米子市 鳥取県鳥取市 鳥取県伯耆町 鳥取県江府町 鳥取県八頭町 山口県下関市 広島県庄原市 広島県三次市 広島県東広島市 広島県熊野町 広島県三庄町 兵庫県篠山市 兵庫県宍粟市 香川県高松市 富山県高岡市 群馬県高崎市 鹿児島県肝付町	隠岐の島町立原田認定こども園 福生保育園、米子市立すみれ保育園、成実保育園、河崎保育園、福米保育園、米子市立小鳩保育園 わかば台保育園 伯耆町立ふたば保育所 江府町立子供の国保育園 八頭町立郡家保育所 専立寺保育園 庄原市立みどり園保育所、庄原市立山内保育所 三次市立河内保育所 東広島市立川上西部保育所 くまの・みらい保育園 尾道市立三庄認定こども園 篠山市立城東保育園 千種杉の子保育園 高松市立林保育所 認定こども園かたかご保育園 高崎市立群馬南保育園 高山保育園	1年前期・ 保育実習Ⅰ (保育所) 2年前期・ 保育実習Ⅱ
児童館・児童クラブ	鳥根県松江市 鳥根県益田市 鳥取県日吉津村 東京都八王子市	東津田児童館、八雲児童センター、乃木児童クラブ、乃木第2児童クラブ、乃木第3児童クラブ、やくも児童クラブ、大庭地区児童クラブ、古志原地区第1児童クラブ、古志原地区第2児童クラブ、津田第1児童クラブ、津田第2児童クラブ、津田第3児童クラブ、川津児童クラブ、城北児童クラブ、あおぞら児童クラブ 益田市立益田児童館 日吉津村立児童館 八王子市立北野児童館	1年後期・ 保育実習Ⅲ
児童福祉施設等	鳥根県松江市 鳥根県出雲市 鳥根県安来市 鳥根県浜田市 鳥根県隠岐の島町 鳥取県米子市	松江赤十字乳児院、鳥根東光学園、双樹学院、松江学園、松江整肢学園、国立病院機構松江医療センター、鳥根県立わかたけ学園、しののめ寮 さざなみ学園、児童心理療育センターみらい 安来学園 聖唹寮、こくぶ学園 仁万の里児童部 米子聖園天使園	2年前期・ 保育実習Ⅰ (施設)
幼稚園	鳥根県松江市 鳥根県安来市 鳥根県出雲市	松江市立幼保園のぎ、松江市立城西幼保園、松江市立中央幼稚園、松江市立古志原幼稚園、松江市立津田幼稚園、松江市立川津幼稚園、松江市立生馬幼稚園、松江市立忌部幼稚園、松江市八雲幼稚園、松江市立玉湯幼稚園 安来市立安来幼稚園、認定こども園荒島幼稚園 出雲市立出東幼稚園、出雲市立中央幼稚園、出雲市立今市幼稚園、出雲市立四絡幼稚園、出雲市立大社幼稚園、出雲市立湖陵幼稚園、光幼稚園	2年前期・後 期・教育実習

区分	所在	施設・機関名	備考
幼稚園	島根県雲南市	雲南市立大東幼稚園、雲南市立西幼稚園、雲南市立斐伊幼稚園、雲南市立三刀屋幼稚園、雲南市立鍋山幼稚園	2年前期・後期・教育実習
	島根県大田市	大田市立大田幼稚園、大田市立久手幼稚園	
	島根県江津市	江津市立江津幼稚園	
	島根県浜田市	浜田市立長浜幼稚園、浜田市立石見幼稚園	
	鳥取県米子市	米子みどり幼稚園、みずほ幼稚園、東みずほ幼稚園、米子幼稚園	
	鳥取県鳥取市	鳥取県立鳥取聾学校、矢谷学園鳥取第四幼稚園	
	香川県高松市	高松市立林幼稚園	
	広島県東広島市	東広島市立八本松中央幼稚園、	
	広島県三次市	十日市幼稚園、三次中央幼稚園	
	広島県尾道市	尾道市立土生幼稚園	
	広島県熊野町	淳教幼稚園	
	兵庫県篠山市	篠山市立たき幼稚園	
	兵庫県宍粟市	宍粟市立千種幼稚園	
	富山県高岡市	高岡第一学園附属第一幼稚園	
	群馬県高崎市	堤ヶ岡幼稚園	
	福岡県志免町	博多第一幼稚園	
	鹿児島県鹿屋市	西原幼稚園	

この実習施設・機関により構成された実習指導委員会で策定された実習計画により、実習全体の方針、実習の段階、内容、施設別の期間、時間数、学生の数、実習前後の学習に対する指導方法、実習の記録、評価の方法が明らかにされている。

「保育実習Ⅲ」については、実習施設を保育学科が選定して実習指導委員会を設けている。実習生、実習施設の指導者、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら実習の効果を十分発揮するように努めている。

「教育実習」については、原則的に実習指導委員会を設けるが、学生が自主的に地元等の実習幼稚園を選定する場合は個別に対応している。実習生、実習幼稚園の指導教員、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら、実習の効果を十分発揮するように努めている。平成26年度に保育学科が連携して実習を実施した実習施設・機関は上の表のとおりであった。

8. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動

【読み聞かせの活動】

平成26年度 おはなしレストランの読み聞かせ活動

- ◆松江市立幼保園のぎでの実践（5月～7月、11月～1月の毎週月曜日）
参加した学生数 51名
- ◆松江市立乃木小学校での実践（5月～7月、11月～1月の毎週水曜日）
参加した学生数 51名
- ◆松江市立忌部小学校での実践（4月～7月、10月～3月の毎週金曜日）
参加した学生数 11名
- ◆おはなしレストランライブラリーでの実践（4月～月の毎週日曜日）
参加した学生数 11名
- ◆出前シェフ（不定期）23カ所での実践
参加した学生数 11名



▲大学祭おはなしのじかんスペシャル



▲保育園での出前シェフ

幼保園のぎ、乃木小学校での実践は、保育学科、総合文化学科の1年生のうち、「読み聞かせの実践」を履修した51名が参加した。忌部小学校での読み聞かせ並びに本学おはなしレストランライブラリーで行なう「おはなしのじかん」は、総合文化学科2年生のうち、卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の11名が参加した。「おはなしのじかん」は、常時30名前後の親子連れの来館があった。とくに「おはなしのじかん」の特別企画として開催した7月の七夕会、10月の大学祭企画、12月のクリスマス会、そして3月の感謝祭では、100名を超える親子連れでにぎわった。

学外の保育所や図書館などからの要望を受けて読み聞かせに出かける「出前シェフ」は、平成26年度は合計23カ所で活動を行なった。松江市内の保育所や子育て支援センター、江

津中学校、三刀屋高校、石見部の図書館や隠岐西ノ島の小学校や保育所など、県内各地で学生たちは多くの子どもたちとの出会いを経験した。

【おはなしレストランライブラリー】

平成26年8月、おはなしレストランライブラリーは大阪府立大学より第1回マイクロ・ライブラリーアワードの表彰を受けた。小規模ながらも本の貸し出しを通じて地域貢献している図書館に贈られ、今回、栄えある第1回目の受賞に全国500館の中からおはなしレストランライブラリーを含め27館が選ばれた。



▲第1回マイクロ・ライブラリーアワード受賞

平成23年度に学内・学外に向けて開館して4年が経過し、学内の学生はもとより、学外からの一般来館者も徐々に増え、平成26年度は、月ごとの来館者が約1300名、貸出冊数は4000冊を超えた。

おはなしレストランライブラリー 月平均の来館者人数・貸出冊数 (平成26年4月～平成27年2月) 学内: 来館者352人、貸出516冊 学外: 来館者977人、貸出3608冊

【講演会・沖縄での読み聞かせ・ボランティア活動】

おはなしレストランでは、平成26年10月4日(土)・5日(日)の両日、絵本作家tupera tuperaの亀山達矢さんをお迎えし、初日は本学大講義室で絵本の作り方について講演会を開催し、2日目は県立美術館との共催で、宍道湖畔で「しんじこかいじゅう大作戦」を行い、親子連れと共に思い思いの怪獣を作って楽しんだ。

おはなしゼミでは夏に沖縄の小学校で読み聞かせを体験し、小泉八雲の「雪女」などのおはなしを届けた。島根と沖縄をつないだ活動となった。おはなしレストランライブラリーを利用した、カンボジアの子どもたちに文具や衣類を送る活動も、市民の皆様と協力して本年度も行った。



▲しんじこかいじゅう大作戦



▲沖縄市立開南小学校での読み聞かせ

平成26年度 公開講座「椿の道アカデミー」開催状況

実施日	時間	講座名	講師	会場	受講者	
6月25日	水 14:00～ 15:20	01. 総合文化講座：「文化をつむぐ」（全11回）	出雲大社と近代観光	工藤泰子	体育館研修室	69
7月23日			文化を紡ぐ・育む心―丸亀周造『「いき」の構造』を中心に	村井洋（浜田キャンパス）		47
7月30日			大人も楽しめる絵本	岩田英作		48
8月6日			最近のテレビ・ドラマ制作の傾向～「あまちゃん（13NHK）」「半沢直樹（13TBS）」とその後～	瓜生忠久（浜田キャンパス）		52
8月27日			フィクションの効用	高橋純	大講義室	50
9月10日			インテリアファブリックスの魅力	藤居由香	体育館研修室	52
9月18日			英語ミステリー作品の翻訳から学ぶ「ことばと文化」	田中芳文（出雲キャンパス）	体育館研修室	48
10月8日			インドネシアの家と人々の暮らし	塩谷もも		46
10月15日			伊勢物語を読む―或る男の一代記?―	村上桃子		51
10月29日			現代ギリシャとラフカディオ・ハーン―没後110年記念事業を終えて―	小泉凡	57	
11月12日			日本とロシアにおけるハンセン病意識の比較	シローコフ ワジム（浜田キャンパス）	大講義室	34
6月4日～7月16日	水 13:30～ 15:00	02. 源氏物語を読む―恋に殉じた青年の話し編―（全6回）	三保サト子（本学名誉教授）	体育館研修室	456	
6月27日	金 15:00～ 17:00	03. 風土記の語る神話―出雲国風土記を中心に―（全5回）	国引き神話・穴道郷神話など（出雲国風土記）	藤岡大拙（本学元学長）	体育館研修室	97
7月25日			三沢郷神話・恋山神話など（出雲国風土記）			87
8月29日			大穴持命の妻問い神話（出雲国風土記）			80
9月19日			播磨国における出雲の神々（播磨国風土記）			78
9月26日			蘇民将来・浦嶋子・湯泉神話など（風土記逸文）			83
5月19日～2月16日	月 14:00～ 16:00	04. 椿の道読書会（全8回）	北井由香	図書館グループ閲覧室	106	
6月6日～6月20日	金 10:00～ 11:30	05. 子どもがいる家庭のための英語教育実践講座（全3回）	ラング クリス	第2視聴覚室	58	
7月28日～8月1日	月～金 10:40～ 12:10	06. 英語絵本の音読を楽しもう（全5回）	小玉容子、ダスティン キッド	図書館グループ閲覧室	44	
10月15日	火 14:00～ 15:30	07. ～続～子育て・孫育て世代のための子ども理解講座（全3回）	「家族」からの子ども理解	矢島毅昌	図書館グループ閲覧室	12
10月21日			「教育」からの子ども理解			8
10月28日			「社会現象」からの子ども理解			11
8月19日	火 19:00～ 20:30	08. 健康栄養講座：鳥根の食と健康（全5回）	高齢者の健康について―現状と課題―	名和田清子	臨床栄養実習室	23
8月26日			高齢者の身体と特徴 生活習慣病と上手に付き合うために	直良博之 安藤彰朗	調理実習室	22
9月2日			鳥根県の食材を使った調理実習―食形態の展開―	坂根千津恵、水珠子、川谷真由美		25
9月9日			高齢化に対応した地産地消の取り組み1―しまね和牛―	籠橋有紀子		臨床栄養実習室
9月16日			高齢化に対応した地産地消の取り組み2―西条柿―	赤浦和之	14	
7月9日～12月24日	水 19:00～ 21:00	09. 栄養士のためのステップアップ講座（全12回）	健康栄養学科教員	臨床栄養実習室	120	
8月2日～9月7日	土日 10:00～ 16:30	09. 栄養士のためのステップアップ講座（集中講義）（全4回）	健康栄養学科教員	臨床栄養実習室	51	
7月19日	土 13:00～ 15:00	10. 山陰民俗学会連携講座：民俗の行方～山陰のフィールドから考える～Part2（全4回）	現代に残る江戸時代初期のわらべ歌	酒井薫美（山陰民俗学会会長）	第2視聴覚室	10
7月26日			年中行事・祭りの変化と継承―その②―	品川知彦（鳥根県立古代出雲歴史博物館学芸情報課長）		14
8月9日			民俗芸能伝承と学校教育②―石東地域における石見神楽の伝承活動を中心に―	多田房明（美郷町立大和小学校長）	9	
8月30日			鳥取県からみた民俗芸能の変化と継承	原島知子（鳥取県教育委員会事務局文化財課）	視聴覚室	13
5月31日～11月15日	土 14:00～ 16:00	11. 民族音楽の楽しみ：ガムラン教室（全12回）	瀬古康雄（本学元教授）	秋楽ガムラン音楽室（5/17・8/30）	113	
8月2日	土 14:00～ 16:00	12. 子どもの困った行動に対処する養護・保育のスキルアップ講座：コモンセンス・ペアレンティング（全7回）	わかりやすいコミュニケーション	藤原映久	1号館学生ラウンジ	3
8月9日			良い結果・悪い結果			4
8月23日			効果的な誉め方			3
8月30日			予防的教育法			4
9月6日			問題行動を正す教育法			5
9月13日			自分自身をコントロールする教育法			3
9月20日			フォローアップ			3
5月17日	土 13:30～ 15:00	13. 案外知っているようで知らない「人」の話（全3回）	「しんりがく」の世界って？―どんなことやってるの―	飯塚由美	視聴覚室	28
5月24日			まずは自分を知ろう			25
5月31日			人との関わりはどうなってるの？身近なことから心理学			27
8月8日	金 16:00～ 21:20	14. 文化資源探求講座	松江ゴーストツアー	小泉凡	松江市内	18
11月3日	月 9:30～ 17:30		出雲の弥生遺跡を歩く	岡部康幸（NPO法人出雲学研究so会員）、小泉凡	出雲市周辺	39
					2270	

平成26年度 地域連携（貢献）活動の取組状況

1 講演会講師等

NO.	教員氏名	依頼者	内容（テーマ等）	日付
1	名和田清子（健康栄養学科教授）	中国地区児童養護施設協議会	第51回児童養護施設協議会 第3分科会 助言者	平成26年6月18日～19日
2	名和田清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人島根県栄養士会 大田市	平成26年度 市民公開講座（島根県栄養士会・大田地区栄養士会における生涯教育実務研修及び 大田市食育ボランティア フォローアップ研修会）講師	平成26年8月8日
3	名和田清子（健康栄養学科教授）	出雲保健所	平成26年度炎症性腸炎患者・家族学習会（於 出雲保健所）講師	平成26年7月27日
4	名和田清子（健康栄養学科教授）	大田邑智糖尿病研究会	第30回大田邑智糖尿病研究会研修会講師	平成26年7月3日
5	名和田清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会生涯教育講師	平成26年12月14日
6	名和田清子（健康栄養学科教授）	浜田保健所 はなみずきの会	はなみずきの会（浜田地区、炎症性腸炎の患者家族の会）食事学習会講師	平成26年12月7日
7	名和田清子（健康栄養学科教授）	いずも糖尿病合同カンファレンス	第2回いずも糖尿病合同カンファレンス 講演	平成26年11月4日
8	名和田清子（健康栄養学科教授）	陽だまりの会	クローン病 食事講習会（陽だまりの会 松江地区）	平成26年10月4日
9	名和田清子（健康栄養学科教授）	県央保健所	平成26年度炎症性腸炎患者・家族学習会	平成26年9月28日
10	名和田清子（健康栄養学科教授）	奥出雲町	平成26年度第1回奥出雲町食育推進委員会研修講師	平成26年6月24日
11	酒元誠治（健康栄養学科教授）	公益社団法人宮崎県栄養士会	講師：MDA-DAT研修会「県民健康・栄養調査とMNA調査の成果～非常時における栄養スクリーニング法～」	平成26年8月17日
12	酒元誠治（健康栄養学科教授）	日本栄養改善学会	講師：ランチョンセミナー「在宅高齢者のサルコペニア予防のための食介入」	平成26年8月21日
13	酒元誠治（健康栄養学科教授）	宮崎県日南保健所	講師：平成26年度管内行政栄養士研修会 「行政栄養士の在るべき姿～事業を評価する意味とは～」	平成26年11月25日
14	酒元誠治（健康栄養学科教授）	浜田市地域医療対策課	講師：平成26年度介護予防企画研修会 「元気で長生き『食』の秘訣」	平成27年3月9日
15	籠橋有紀子（健康栄養学科准教授）	中国地域産学官連携コンソーシアム	脂質栄養に着目した糖尿病発症予防および病態改善のための技術開発の試み	平成26年9月26日
16	山下由紀恵（保育学科教授）	益田市保育研究会	平成26年度益田市保育研究会総会講師「益田市ふるさと基盤教育について」	平成26年4月26日
17	山下由紀恵（保育学科教授）	松江市幼稚園教育研究会	松江市幼稚園教育研究会講師「保幼小接続カリキュラムについて」	平成26年7月23日
18	山下由紀恵（保育学科教授）	島根県健康福祉部	平成26年度市町村職員等専門研修（児童福祉司任用資格認定講習会）講師「母子関係理論と発達心理学」	平成26年8月21日 平成26年8月22日
19	山下由紀恵（保育学科教授）	松江市教育委員会 松江市健康福祉部	第2回松江市保幼小接続カリキュラム（生活する力）研修会第2回幼稚園保育所職員スキルアップ講座講師「『生活する力』の発達と教育」	平成26年10月21日
20	山下由紀恵（保育学科教授）	島根県社会福祉協議会	保育士（再）就職支援セミナー「HUG！くむセミナー」講師「新しい保育保育課題への対応」「子どもの発達と保育」	平成26年10月28日 平成26年11月10日
21	山下由紀恵（保育学科教授）	川本町教育委員会	川本町特別支援連携協議会総会研修会講師「川本町インクルーシブ相談支援ファイルについて」	平成27年3月9日
22	山下由紀恵（保育学科教授）	川本町保育研究会	川本福祉会職員研修会講師「子どもの発達を援助する遊びについて」	平成27年3月14日
23	福井一尊（保育学科准教授）	雲南市保育研究会	「子どもの絵画指導研修」	平成26年8月5日
24	福井一尊（保育学科准教授）	松江市幼稚園教育研究会	「子どもらしい素直な楽しむための保育のあり方を探る」	平成26年9月3日
25	福井一尊（保育学科准教授）	島根県保育所（園）・幼稚園造形教育研究会	「描画表現指導研修会」	平成26年11月21日
26	福井一尊（保育学科准教授）	島根県保育所（園）・幼稚園造形教育研究会	島根県保育所（園）・幼稚園造形教育研究会 作品展審査委員	平成26年11月21日
27	福井一尊（保育学科准教授）	島根県社会福祉協議会	島根県障がい者アート作品展 作品審査委員長	平成26年12月3日
28	福井一尊（保育学科准教授）	松江市保育研究会	「造形活動の援助と、立体作品の展示」	平成26年12月4日
29	小山優子（保育学科准教授）	松江福祉会	松江福祉会職員研修会「指導計画と保育の記録」	平成26年9月19日

NO.	教員氏名	依頼者	内容(テーマ等)	日付
30	小山優子(保育学科准教授)	育英保育園	第8回松江市保育研究会. 指導助言者	平成26年11月22日
31	小山優子(保育学科准教授)	松江市保育研究会	松江市保育研究会研修部研修会「実践例をもとにした指導計画の書き方」	平成27年1月24日
32	藤原映久(保育学科講師)	島根県児童養護施設協議会	第51回 中国地区児童養護施設研究協議会 演題: 性問題行動への対応~全体的視点から~	平成26年6月19日
33	藤原映久(保育学科講師)	島根大学教育学部付属中学校	「総合的な学習の時間」講演会 演題: 福祉について	平成26年6月20日
34	藤原映久(保育学科講師)	島根県健康福祉部	平成26年度 島根県市町村職員等専門研修会(児童福祉司任用資格認定講習会) 演題: 児童福祉論、社会福祉援助技術論(浜田・松江)	平成26年8月21日、8月22日
35	藤原映久(保育学科講師)	鳥取県児童館連絡協議会	2014年度 鳥取県児童館連絡協議会職員研修会 演題: 児童の発達理論(発達段階と発達課題~児童福祉現場の視点から~)	平成26年9月25日
36	藤原映久(保育学科講師)	鳥取県児童館連絡協議会	2014年度 鳥取県児童館連絡協議会職員研修会 演題: 個別援助活動	平成26年11月10日
37	藤原映久(保育学科講師)	島根県児童館連絡協議会	平成26年度 島根県児童厚生員等第2回研修会 演題: 個別援助活動	平成26年12月7日
38	藤原映久(保育学科講師)	雲南市幼稚園子育て支援プロジェクト	しまね子育て支援プラス事業「職員研修会」 演題: 児童虐待について~子どもと保護者の心理、支援について~	平成27年1月23日
39	藤原映久(保育学科講師)	佐賀県総合福祉センター	平成26年度 児童福祉施設性(生)教育研修会 演題: 施設内での暴力防止を目指して	平成27年3月6日
40	藤原映久(保育学科講師)	佐賀県総合福祉センター	平成26年度 児童福祉施設職員研修会 演題: 島根県版性(生)教育プログラム~プログラムの意図、内容、構造及びよき実践への提案	平成27年3月6日
41	岩田英作(総合文化学科教授)	NPO プレパークてんと虫	出雲市斐川町の古民家「てんと虫の家」で、一般の親子づれを対象に、読み聞かせの実践を交えながら読み聞かせの仕方や意義について講演した。	平成26年5月24日
42	岩田英作(総合文化学科教授)	島根県教育委員会	文部科学省委託事業「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」に係る学校図書館公開講座(三刀屋高校)三刀屋高校の生徒及び保護者、県内の学校司書を対象に、高校生におすすめの絵本を紹介し、読み聞かせや読書の意義について講演した。	平成26年7月1日
43	岩田英作(総合文化学科教授)	鹿島子育て支援センター	松江市鹿島町の子育て支援センターで、乳幼児の保護者を対象に、読み聞かせの方法と意義、父親の読み聞かせ参加の意義について講演した。	平成26年8月20日
44	岩田英作(総合文化学科教授)	松苑会	島根県立大学松江キャンパスホームカミングデー同窓会松苑会講演会において、本学同窓会員を対象に、おはなしレストランの取組とライブラリーの紹介、絵本の読み聞かせの実践と大人も楽しめる絵本について講演した。	平成26年8月24日
45	岩田英作(総合文化学科教授)	雲南市幼稚園教育研究会	雲南市幼稚園教育研究会全体研修会で、雲南市の幼稚園教諭を対象に、絵本の読み聞かせの重要性、教師として配慮すべきこと、年齢にふさわしい絵本について講演した。	平成26年9月5日
46	岩田英作(総合文化学科教授)	円建創	円建創子育てワークショップ「読みメン講座」で、乳幼児の保護者を対象に、読み聞かせの方法と意義、父親の読み聞かせ参加の意義について講演した。	平成26年9月13日
47	岩田英作(総合文化学科教授)	大田市立温泉津図書館	大田市温泉津地区の子供、保護者、読み聞かせボランティアの方々を対象に、読み聞かせの実演を交えながら読み聞かせの意義について講演した。	平成26年9月20日
48	岩田英作(総合文化学科教授)	松江市	松江市内の幼稚園・保育所職員を対象に、絵本を鑑賞し、職員と子ども、親と子で読み聞かせを楽しむコツ、父親の読み聞かせ参加の意義について講演した。	平成26年10月30日
49	岩田英作(総合文化学科教授)	大田市立仁摩図書館	大田市立仁摩図書館で親子連れを対象に、読み聞かせを交えながら読み聞かせの仕方や意義、おすすめ絵本について講演した。	平成26年11月1日
50	岩田英作(総合文化学科教授)	浜田市立金城図書館	金城町さざんかまつりのブースで親子連れを対象に、読み聞かせしながら絵本の魅力、読み聞かせの方法・意義について講演した。	平成26年11月2日
51	岩田英作(総合文化学科教授)	島根県教育委員会 隠岐の島町図書館	しまね子ども読書フェスティバルin隠岐の島町「えーさくおじさんの絵本をめぐる冒険」として、隠岐の島町図書館で親子連れ、読み聞かせボランティアを対象に、家族ぐるみでの読書推進を目的に読み聞かせについて講演した。	平成26年11月8日
52	岩田英作(総合文化学科教授)	大阪府教育委員会	大阪府教育委員会就学前読書活動フォーラム「絵本でつながる家庭と地域~えーさくおじさんの読みメン道場~」として、保育所・幼稚園・図書館等で子ども読書に携わっている方々を対象に、絵本の魅力や父親が参加することの意義について講演した。	平成27年2月18日
53	岩田英作(総合文化学科教授)	西ノ島町教育委員会	しまね子育て支援プラス事業「おはなしレストランin西ノ島~絵本だよ、子どもも大人も全員集合!~」として、親子連れを対象に、絵本の魅力や読み聞かせの意義と方法、父親が参加することの意義について講演した。	平成27年3月6・7日
54	岩田英作(総合文化学科教授)	雲南市男女共同参画課	男女共同参画の絵本と他の絵本との違いについて、雲南市男女共同参画課でつくった絵本「ひかりん」「ハッシー」を中心に取り上げながら講演した。	平成27年3月22日
55	岩田英作(総合文化学科教授)	雲南市男女共同参画課	雲南市立加茂図書館で、親子連れを対象に絵本の紹介、読み聞かせを行い、絵本の持つ力について講演した。	平成27年3月29日
56	マユーあき(総合文化学科教授)	松江市立城北小学校 PTA 研修教養部	家庭教育研修会「子どもとともに、絵本とともに ~おはなしレストランの取り組み~」	平成26年9月25日
57	松浦雄二(総合文化学科教授)	松江市立中央図書館	平成26年度松江市立中央図書館定期講座 「小泉八雲に学び・親しむ」	平成27年2月27日

NO.	教員氏名	依頼者	内容(テーマ等)	日付
58	小泉 凡(総合文化学科教授)	島根県医師国民健康保険組合	全国国民健康保険組合協会中国四国支部総会特別講演「小泉八雲がみた出雲文化」	平成26年5月17日
59	小泉 凡(総合文化学科教授)	松江大橋を守る市民の会	総会講演「オープン・マインド・オブ・ラフカディオ・ハーン」	平成26年7月17日
60	小泉 凡(総合文化学科教授)	松江怪喜宴実行委員会	松江怪談談義「怪談のふるさと松江で語る小泉八雲」講師	平成26年7月26日
61	小泉 凡(総合文化学科教授)	日本経済新聞名古屋支社	親子サマーセミナーin名古屋大学講演「妖怪と怪談に学ぼう—小泉八雲の世界から—」	平成26年8月13日
62	小泉 凡(総合文化学科教授)	島根県神社庁	神職夏季練成講習会講演「小泉八雲を現代に活かす」	平成26年8月17日
63	小泉 凡(総合文化学科教授)	知多市立中央図書館	講演「小泉八雲没後110年 小泉八雲・怪談の世界」	平成26年8月30日
64	小泉 凡(総合文化学科教授)	朝日カルチャーセンター川西	講演「知られざる日本の面影—没後110年小泉八雲がみた日本—」	平成26年9月6日
65	小泉 凡(総合文化学科教授)	松江市民館退職者館長会	第12回総会講演「現代に活かす小泉八雲」	平成26年9月19日
66	小泉 凡(総合文化学科教授)	東京松江会総会	総会記念講演「小泉八雲を現代に活かす」	平成26年10月4日
67	小泉 凡(総合文化学科教授)	語りと音楽の会ともだちや、新宿区	小泉八雲没後110年記念公演「漂流」 講演「現代に息づく八雲の心」	平成26年10月4日
68	小泉 凡(総合文化学科教授)	松江市城北公民館	小泉八雲講座「人間小泉八雲—オープン・マインドで生きた人—」	平成26年10月9日
69	小泉 凡(総合文化学科教授)	島根県退職公務員連盟松江支部	総会講演「『小泉八雲』を現代に活かす」	平成26年11月11日
70	小泉 凡(総合文化学科教授)	朝日カルチャーセンター湘南	講演「オープン・マインド・オブ・ラフカディオ・ハーン—ギリシャから日本へ—」	平成26年11月29日
71	小泉 凡(総合文化学科教授)	松江市立中央図書館	小泉八雲に学び・親しむ「八雲のいたずら—小泉家に起きた不思議なお話—」	平成26年12月27日
72	小泉 凡(総合文化学科教授)	八雲たつ風土記の丘資料館	風土記の丘教室講演「小泉八雲と出雲の護符」	平成27年1月10日
73	小泉 凡(総合文化学科教授)	兵庫県立図書館	阪神淡路大震災20年・県立図書館40周年記念講演「八雲のこころと防災学習」	平成27年1月31日
74	小泉 凡(総合文化学科教授)	山陰菱機会	総会講演「小泉八雲がみた出雲文化」	平成27年2月6日
75	小泉 凡(総合文化学科教授)	米子市教育委員会	米子人生大学講演「小泉八雲と怪談を楽しむ」	平成27年2月9日
76	小泉 凡(総合文化学科教授)	出雲市長浜公民館JK委員会	記念講演「オープン・マインドで地球をみる」	平成27年2月21日
77	山村桃子(総合文化学科講師)	山陰万葉を歩く会	山陰万葉を歩く会第二回総会講師「柿本人麻呂の魅力—石見と大和を中心に—」	平成26年7月21日
78	山村桃子(総合文化学科講師)	荒神谷博物館	荒神谷博物館講演会講師「新羅の王子、天之日矛の渡来」	平成26年11月8日

平成26年度 地域連携（貢献）活動の取組状況

2 審議会委員等

NO.	教員氏名	委嘱（依頼）者	役職名	期間
1	名和田清子（健康栄養学科教授）	島根県	松江圏域健康長寿しまね推進会議 委員	平成16年4月～
2	名和田清子（健康栄養学科教授）	島根県	島根県食育・食の安全推進協議会委員	平成19年4月～
3	名和田清子（健康栄養学科教授）	島根県	島根県健康長寿しまね推進会議 委員	平成17年 4月～
4	名和田清子（健康栄養学科教授）	島根県	島根県環境農業推進協議会 副委員長	平成19年 4月～
5	名和田清子（健康栄養学科教授）	島根県	島根県糖尿病専門委員会 委員	平成19年 4月～
6	名和田清子（健康栄養学科教授）	島根県教育委員会	学校給食表彰の推薦に係る審査会 審査員	平成19年 4月～
7	名和田清子（健康栄養学科教授）	島根県	「わが家の一流シェフin島根」料理コンクール審査員	平成19年度～
8	名和田清子（健康栄養学科教授）	島根県	島根県中山間地域等進行対策検討委員会 委員	平成22年 4月～
9	名和田清子（健康栄養学科教授）	雲南市	雲南市学校給食調理業務等委託評価委員会 委員長	平成24年4月～
10	名和田清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会 理事	平成24年5月～
11	名和田清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会生涯教育委員長	平成26年4月～
12	名和田清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人島根県学校給食会	公益社団法人島根県学校給食会 評議員	平成24年 6月～
13	名和田清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人日本栄養士会	公益社団法人日本栄養士会 研究教育事業部企画運営委員会 副委員長	平成26年 8月～
14	名和田清子（健康栄養学科教授）	まつえ市民大学運営協議会	まつえ市民大学運営協議会 委員	平成25年 4月～
15	名和田清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会 副会長	平成26年6月～
16	名和田清子（健康栄養学科教授）	奥出雲町	奥出雲町食育推進委員会 委員長	平成25年8月～平成27年7月
17	名和田清子（健康栄養学科教授）	島根県牛乳普及協会	平成26年度牛乳・乳製品料理コンクール島根県大会審査委員長	平成26年 9月～10月
18	名和田清子（健康栄養学科教授）	雲南市	雲南市健康都市宣言策定委員会 委員	平成26年5月～平成27年3月
19	名和田清子（健康栄養学科教授）	雲南市	雲南市健康都市宣言策定委員会 委員	平成26年5月～平成27年3月
20	名和田清子（健康栄養学科教授）	雲南市	第3次雲南市教育基本計画策定委員会 副委員長	平成26年6月～平成27年3月
21	酒元誠治（健康栄養学科教授）	島根県	平成26年度島根県調理師試験委員	平成26年5月1日～平成26年10月31日
22	赤浦和之（健康栄養学科教授）	島根大学	島根大学生物資源科学部生物資源教育研究センター農業生産部門共同利用運営委員会委員	平成26年4月1日～
23	籠橋有紀子（健康栄養学科准教授）	中国地域産学官連携コンソーシアム	中国地域産学官連携コンソーシアム連絡会議委員	平成25年4月1日～
24	山下由紀恵（保育学科教授）	松江市	松江市子育て支援ネットワーク会議委員	平成19年5月～平成27年3月
25	山下由紀恵（保育学科教授）	松江市	松江市心身障害児小規模療育事業検討委員	平成19年5月～平成27年3月
26	山下由紀恵（保育学科教授）	松江市	松江市教育委員会専門巡回相談事業相談員	平成23年8月～平成27年3月
27	山下由紀恵（保育学科教授）	内閣府	内閣府男女共同参画推進連合会議委員	平成25年9月～平成26年3月
28	山下由紀恵（保育学科教授）	島根県	島根県障がい者自立支援協議会委員	平成23年4月～平成27年3月
29	山下由紀恵（保育学科教授）	島根県	島根県障がい者施策審議会委員	平成23年4月～平成27年3月
30	山下由紀恵（保育学科教授）	島根県	島根県子ども・子育て支援推進会議委員	平成25年10月～平成27年3月

NO.	教員氏名	委嘱(依頼)者	役職名	期間
31	山下由紀恵(保育学科教授)	島根県教育委員会	島根県しまねのふるまい推進連絡協議会会長	平成25年7月～平成27年3月
32	岸本 強(保育学科教授)	島根県教育委員会	島根県スポーツ推進審議会委員 副会長	平成22年8月～平成30年8月
33	岸本 強(保育学科教授)	島根県教育委員会	文科省委託事業地域を活用した学校丸ごと子どもの体力向上支援 事業実施委員会委員	平成25年6月～平成27年5月
34	岸本 強(保育学科教授)	島根県健康福祉部	福祉・介護人材確保対策ネットワーク会議委員	平成25年6月～平成27年5月
35	岸本 強(保育学科教授)	島根県障害者スポーツ 協会	障害者スポーツ支援助成金審査委員	平成23年7月～平成27年6月
36	岸本 強(保育学科教授)	雲南市教育委員会	幼児期運動指針実践調査研究委員会委員	平成24年4月～平成27年3月
37	岸本 強(保育学科教授)	島根県体育協会	しまね広域スポーツセンター企画運営委員会 副会長	平成17年10月～平成27年9月
38	岸本 強(保育学科教授)	島根県体育協会	医科学サポート委員会委員	平成18年5月～平成27年4月
39	岸本 強(保育学科教授)	島根県体育協会	普及委員会副会長	平成24年5月～平成27年4月
40	岸本 強(保育学科教授)	公益財団法人松江市ス ポーツ振興財団	理事	平成25年5月～平成27年4月
41	岸本 強(保育学科教授)	公益財団法人ごうぎん 島根文化振興財団	評議員	平成23年5月～平成27年4月
42	岸本 強(保育学科教授)	社会福祉法人島根県社 会福祉協議会	保育の就職支援プロジェクト会議委員	平成25年5月～平成27年3月
43	岸本 強(保育学科教授)	島根県バレーボール協 会	統括アドバイザー	平成23年5月～平成28年4月
44	岸本 強(保育学科教授)	中国大学バレーボール 連盟	理事	平成13年5月～平成28年4月
45	福井一尊(保育学科准教授)	島根県保育所(園)・ 幼稚園造形教育研究会	顧問	平成19年年度から平 成26年度現在
46	福井一尊(保育学科准教授)	しまね文化振興財団	島根県民会館名画劇場運営委員	平成21年年度から平 成26年度現在
47	福井一尊(保育学科准教授)	島根県社会福祉協議会	障がい者アートを活用した商取引に係る著作権等保護に関する検 討委員会 委員長	平成25年9月～現在
48	福井一尊(保育学科准教授)	益田市	益田市子ども子育て会議 委員	平成26年1月～現在
49	小山優子(保育学科准教授)	大田市	大田市子ども・子育て支援推進会議委員長	平成25年12月～
50	小山優子(保育学科准教授)	松江市	松江市施設指定管理者選定審議会委員長	平成26年6月～平成 28年5月
51	藤原映久(保育学科講師)	松江市	松江市障がい者総合支援協議会委員	平成25年7月30日～ 平成27年3月31日
52	藤原映久(保育学科講師)	社会福祉法人島根県社 会福祉協議会	社会福祉法人島根県社会福祉協議会評議員	平成26年6月1日～平 成28年5月31日
53	岩田英作(総合文化学科教)	島根県	島根県子ども読書活動推進会議委員長	平成26年6月～平成 28年6月
54	岩田英作(総合文化学科教)	島根県	文部科学省委託平成26年度「確かな学力の育成に係る実践的調査 研究②学校図書館担当職員の効果的な活用方策と求められる資 質・能力に関する調査研究」事業委員会委員	平成26年4月～平成 27年3月
55	岩田英作(総合文化学科教)	島根県立図書館	「絵本でつながる親子の絆、地域の絆」協議会委員	平成26年8月～平成 27年3月
56	岩田英作(総合文化学科教)	島根県	島根県調べ学習プレゼンテーションコンテスト審査員	平成26年11月
57	岩田英作(総合文化学科教)	出雲市	出雲市立図書館協議会委員長	平成26年12月～平成 27年3月
58	岩田英作(総合文化学科教)	松江市	松江市「小泉八雲をよむ」作詞・詩募集事業審査員	平成27年2～3月
59	マユーあき(総合文化学科教授)	島根県	島根県個人情報保護審査会委員	平成26年4月～

NO.	教員氏名	委嘱(依頼)者	役職名	期間
60	マユーあき(総合文化学科教授)	島根県	島根県情報公開審査会委員	平成26年4月～
61	マユーあき(総合文化学科教授)	松江市	松江市総合計画検証委員会委員(副委員長)	平成26年8月～
62	マユーあき(総合文化学科教授)	松江市	松江市歴史観運営協議会委員	平成24年12月～ 平成26年11月
63	マユーあき(総合文化学科教授)	松江市	松江市個人情報保護審議会委員	平成25年9月～
64	小泉 凡(総合文化学科教授)	松江市観光振興部観光文化課	小泉八雲110年祭まつえ実行委員会委員長	平成26年4月～平成27年3月
65	小泉 凡(総合文化学科教授)	松江市観光振興部観光施設課	小泉八雲記念館顧問	平成26年4月～平成27年3月
66	小泉 凡(総合文化学科教授)	松江市観光振興部観光施設課	小泉八雲記念館再整備展示設計ワーキング会議アドバイザー	平成26年4月～平成27年3月
67	小泉 凡(総合文化学科教授)	松江市観光振興部国際観光課	アイリッシュ・フェスティバルin松江実行委員会委員長	平成26年4月～平成27年3月
68	藤居由香(総合文化学科准教授)	島根県	しまね景観賞審査委員会委員	平成26年4月1日～平成27年3月31日
69	藤居由香(総合文化学科准教授)	松江市	松江市都市計画審議会委員	平成26年4月1日～平成27年3月31日
70	藤居由香(総合文化学科准教授)	松江市	松江市緑地及び自然環境保全審議会委員	平成26年3月14日～平成27年3月31日
71	藤居由香(総合文化学科准教授)	松江市	松江市歴史まちづくり協議会委員	平成26年4月1日～平成27年3月31日
72	藤居由香(総合文化学科准教授)	安来市	新安来庁舎建設基本設計プロポーザル審査委員会委員	平成26年2月1日～平成26年5月31日
73	藤居由香(総合文化学科准教授)	島根県建築住宅センター	一般財団法人島根県建築住宅センター評議員	平成26年4月1日～平成26年3月31日
74	山村桃子(総合文化学科講師)	島根県教育庁文化財課	島根県立八雲立つ風土記の丘指定管理者候補選定委員会	平成26年8月～
75	山村桃子(総合文化学科講師)	島根県教育委員会	島根県古代文化センター企画運営委員会委員	平成26年8月～

平成26年度 地域連携(貢献)活動の取組状況

3 その他地域連携(貢献)活動等

NO.	教員氏名	相手方	内容	日付(期間)
1	酒元誠治(健康栄養学科教授)	日本栄養改善学会	教育講演座長: 講師 厚生労働省 健康局 がん対策・健康増進課 栄養指導室長 河野美穂 「これからの栄養行政と管理栄養士のあり方」	平成26年8月21日
2	酒元誠治(健康栄養学科教授)	日本栄養学教育学会	一般口演座長	平成26年8月23日
3	酒元誠治(健康栄養学科教授)	公益社団法人宮崎県栄養士会	管理栄養士国家試験対策講座講師	平成26年8月30～31日、11月23～24日
4	福井一尊(保育学科准教授)	島根県社会福祉協議会	島根県立美術館において開催した島根県障がい者アート作品展オープニングセレモニー及び授賞式にて、障がい者アートの魅力と、作品審査会の講評について言及する。	平成26年12月6日
5	藤原映久(保育学科講師)	松江市健康福祉部保健福祉課家庭相談室	「障がい者虐待防止に関する検討会」に参加し、障害者虐待防止に関するアンケートの作成等に助言を行う	平成26年7月～